

「ネットいじめ」や「ケータイ問題」を どう教えるのか

— 学校で使えるワークシート集 —



「ネットいじめ」や「ケータイ問題」をどう教えるのか

—学校で使えるワークシート集—

目 次

1	いじめを考える	・・・	2
2	インターネット・携帯電話に関わる問題とは	・・・	6
3	指導資料（小学校低学年から中学年用）	・・・	11
4	指導資料（小学校高学年から中学生用）	・・・	27
5	指導資料（中学生から高校生用）	・・・	43
7	共通指導用資料（徳島市青少年育成補導センター編）	・・・	61
8	参考資料	・・・	73

*本冊子は、科学研究費補助金基盤研究（C）「ネットいじめや『ケータイ問題』に関する教師の知識の現状把握と指導の改善について」（課題番号 24531203）：研究代表者 阪根健二（鳴門教育大学）、研究分担者 戸田有一（大阪教育大学）、研究分担者 吉井健治（鳴門教育大学）：研究期間 2012年度～2014年度の研究成果によるものです。

*なお、ワークシートは、教職大学院・阪根健二研究室プロジェクトチーム（鳴門市板東小学校教諭 松浦弘子、阿南市立富岡小学校教諭 宮原麻夕子、大阪府大東市立南郷中学校教諭 木村理史）及び、徳島市教育委員会青少年育成補導センター（所長 横山鉄也）により作成したものです。（職名は2015年3月現在）

1 いじめを考える

まずは、ここから考えてみたい。

(1) 教員の保身と前向きを分けるもの

“いじめ”は、いつでもどこでも起きるという意識で、全教職員が取り組むことが重要である。特に、人権問題として真剣に対応する必要がある。しかし、社会問題化するたびに、隠ぺい体質が取り上げられるという不幸な事態が発生するのである。それはなぜなのだろうか。

教員には、いじめを認めると汚点になる、マイナス評価につながるという感覚がある。もっと言えば、自分の教師力が試されているという思いが強いからである。つまり、「自分のクラスでいじめは出せない」というプレッシャーは、誰にもあり、これが落とし穴になっているのである。まずは、自分のクラスでもいじめ発生の可能性があることを認めることから始めることが肝要であろう。真摯に向き合うことから逃げると、端緒を逃し、解決のチャンスを逃すことになるのである。

編者は、香川県教委指導主事時代（平成9年から平成13年）、当時の上司と相談して、「問題行動は積極的にカウントする」という方針を打ち出した。その結果、大きな数値を発表せざるを得なくなった。批判覚悟であったが、意外な反応だった。当初は内外から批判はあったものの、それは杞憂だったのである。情報の公開とはそういったものであり、閉鎖的になればなるほど、問題を抱え込むのである。

当時、現場の実態をつかみ、それを参考にして、問題行動に対して努力している学校には、加配やカウンセラーを増員するなどの対策を取った。つまり、「数」は、予算要求を後押しする根拠でもあり、ある意味思い切りが必要な時もある。今、いずれの都道府県でも、こうした統計を積極的に「出す」ようになっており、行政が本腰で対策を取る根拠にもなっている。「出たら恥」ではなく、「出してない（隠している）のに出てしまったら恥」と考えるべきであろう。

(2) 教員の知識とスキル

「いじめ防止プログラム」には様々なものがあるが、これは現場の教員にスキルがないと奏功しない。スキルとは、過去ではなく、今のいじめに対する知識や対処法なのであるが、ここで大切な視点は、子どもが教員に相談できる雰囲気を作れているかであり、押しさえこむことではないはずだ。つまり、子どもたちとちゃんと向き合えているか、あるいは「何か気になるな」という“推認”

が出来ているかであろう。「うちは大丈夫」ではなく、「何かが起きているかも知れない」という前提に立つことから、対策が始まるのである。

大津市でのいじめ自殺問題では、アンケートを取るなど、初期対応では、それなりに対応していたようにも思われる。しかし、事態に対する「センシティブ（敏感）さ」が決定的に薄く、組織的な対応・連携、そして、教員のスタンスに大きな課題があったようだ。こうした問題は、この“センシティブさ”こそが特に重要なのである。

（3）教員のいじめ対応

いじめは、力関係の違いや一方的で継続的であるかどうかで、その対応も違って来る。仮に当事者に聞く場合、1回否定されても、もう1回聞いてみるのが大切ではないだろうか。仮に、けんかと判断しても、弱い方をフォローするくらい徹底して欲しいのである。

いじめを判断するのは確かに難しいといえよう。本人がいじめられていると感じたら、それはいじめなのだが、なかなか言ってくれないのである。特に、気持ちの優しい子ほど、親や先生に迷惑をかけたくないと思って、言わない傾向が強い。また、子どもにもプライドがある。

それでも、いじめではないかと疑ったら、とことん突き詰めることが大切だ。そこまでやらないと早期発見が難しいのである。

教員の立ち位置は「いじめられる側に非はない」なのである。中立に縛られると、結果的に、「いじめられっ子にも非はある」との立場になってしまい、深刻化していくのである。つまり、教員はどんな場合でも、いじめられっ子の側に立つことであり、これでもかと徹底的に寄り添うことである。例え保護者が「先生、もう大丈夫だから」と言っても、まだ寄り添って欲しいのである。

いじめを発見する手段を複数準備して、相談しやすいツールを子ども自身が選べるようにすることが重要だ。定期的なアンケート、駆け込み寺、通報箱、メールや電話相談などもそれにあたるだろう。

大人のいじめ対応姿勢5カ条

- ①いじめられっ子に非なし
(どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う)
 - ②周辺こそがいじめの元凶
(いじめの子よりも周りの子への働き掛けが大切)
 - ③昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手
(深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要)
 - ④いじめの輪から新たな輪へ
(既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する)
 - ⑤いじめっ子だって泣いている
(いじめっ子の抱えるストレスにも目を向けて)
- (阪根健二さん作成)

(新聞や雑誌で紹介された5ヶ条)

(4) いじめ撲滅への取り組み

入学式、保護者会、生徒集会などで「いじめは許さない」という姿勢をきちんと表明することが重要だ。ここで「正義の気風」をつくり、共有することが学校の文化となる。また、学校側は「いじめは、仮に本人（加害者）がいじめと思わなくても大事に発展するため、厳正に対応する」ことを、児童生徒や保護者に、きちんと宣言しておくといいたい。もし、金品を脅し取る、暴力をふるうなどの犯罪行為があれば、関係機関と連携し、毅然とした対応が不可欠だといえる。



(いじめの構造を意識する)

教員の多くは、子どもたちに「見て見ぬふりをする（傍観者）ことは、いじめを黙認しているのと同じだ」ということを教えがちだが、実は子どもたちは、何もできないことを“悩んでいる”のである。そこで、傍観者対策には、教師の働き掛け（支援）が重要だといえよう。「先生に言うのは卑怯なこと」という考え方を捨てさせることを含め、教員は「悩める傍観者」を日常的に支援しないといけないのである。そのため、児童会・生徒会を動かすことも一つであろう。

(5) 加害者対策とは

加害者となる子どもも悩んでいる。「わかってよ」と叫んでいるのである。子どもの行動が荒れるのには理由がある。育ってきた環境も一因だが、学校内で「いい思い」をしていないため、不安になっているのである。その結果、懐疑心が強くなり、ストレスが外部に向かった時に教師にキレたり、弱い者をいじめたりするのである。

予防のポイントは、彼らに成功体験をどう作ってやれるかだ。彼らの共通点は「俺なんかいてもいなくても一緒」と思っているが、何か自分より優るものを排除したがる。自尊感情に乏しく、自らを価値のあるものとみていないのである。

そこで、長所をきちんと褒め、価値を認め、評価することが対策となろう。満足感を得ることで自信につながり、自分にも他人にも受容的になれるのである。つまり、褒める学校文化を作るべきだろう。それが加害者をつくらない一つの手法である。いじめ対策は、この加害者対策も決め手になる。

(6) 心を揺さぶる授業、自分で考え判断する授業

最後に、心を揺さぶる授業、考える授業を工夫して欲しい。例えば、道徳の活用である。以前、Web上で、「バスと赤ちゃん」という実話が話題となった。これは、道徳の副読本（暁教育図書）にも掲載された実話であるが、秀逸の作品であろう。内容は、混雑したバスの中で、泣き叫ぶ赤ちゃん、その母親、運転手、乗客たちが織りなす“ドラマ”であるが、ここにいじめ対策のヒントがある。まさに、傍観者を仲裁者に変えた実例なのである。こうした事例を教材として活用することも可能である。是非、こうした教材を活用することをお勧めしたい。また、判断を要する事例を創作し、それにあわせた授業をすることも一考の価値がある。この冊子では、ネットいじめや、ケータイ問題を取り上げているが、いずれも判断を要する内容になっている。

(7) ネットいじめに対して教師はどう取り組んでいるのか

さて、現場の教員が、「ネットいじめ」や「ケータイ問題」に、どのような理解があり、それに対する指導がどう行われているのだろうか。そこで、質問紙による実態調査を行った。この調査は、ネットいじめについての教師の認識と対応、特にいじめが深刻化した場合と、深刻化を食い止めた場合との「教師の理解と指導」の相違点を量的に明らかにした。

調査数は、330名（教員）、105名（大学院生）の計435名であり、調査地域は、岡山県、愛媛県、兵庫県、高知県の教員（幼小中高）、本学の大学院生（現職のぞく）である。調査時期は、2012年秋から冬にかけて実施したものである。

この調査では、ネットいじめが従来はいじめよりも厳しいいじめであるという認識をもっている教員が73%存在し、ネット関係の対策の必要性を感じている教員が多いことが分かった。一方で、ネットいじめの指導が可能という教員は、わずか12%しかおらず、38%の教員がネットいじめの手口や手法すら知らない実態が分かった。なお、ネットいじめの指導経験者は28%程度存在しており、その内3%程度が深刻化したケースであった。この調査で興味深いのは、年齢が若い大学院生と現場教師とが、程度の差はあれ、同じような傾向であったことである。つまり、教える側も教えられる側もともに、ネットに対する知識は乏しく、スマホなどの操作法だけが長けているという結果だったのである。本教材を活用し、賢く使う知識とスキルを、子どもと一緒に向上させていただければ幸いである。

2015年3月31日

編著者 鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二

2 インターネット・携帯電話にかかわる問題とは

ネット問題の多様化と深刻化 インターネット・携帯電話の普及に伴い、児童生徒の情報活用能力の育成が急務である。これは、高度情報化社会の進展において、必然の動きであり、これまでに想定できなかった様々な問題の発生が、一層拍車をかけているといえよう。特に、従来の生徒指導の課題が、インターネット等を介在として、より複雑化していることで、その対応に苦慮している現状がある。こうした児童生徒の安全を脅かすインターネット等の問題（以下、ネット問題と呼ぶ）は、喫緊の課題ともいえよう。

ここでポイントになるのは、派生する問題の多さと深刻化である。例えば、使いすぎによる生活習慣の乱れや経済的な問題という個人的な課題はもとより、ネットいじめに代表される、安易な書き込みによる人権侵害の問題など、数えればきりが無い。また、インターネットを介在しているため、社会全体に関わる問題につながり、著作権侵害や偽計業務妨害などの犯罪行為に発展する場合もある。利便性が高く、誰でも持つ（使う）ことが可能なため、児童生徒の問題だけでなく、大人でも事件や事故に関わることが、ネット問題の特徴であると言える。

ここでは児童生徒が、被害者とならないことだけでなく、加害者とならないという視点が重要である。しかし、指導にあたる大人の知識と認識が不足していることで、対応策が後手に回っている現実がある。

違法・有害情報 違法・有害情報は世の中に氾濫している。これが、インターネット等が介在すると、躊躇なく家庭内にも入り込んでくるといえよう。近年、出会い系サイトによる児童生徒の被害は増加し、社会問題となった。そのため、「出会い系サイト規制法（インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律）が、2003年に制定され、その後、2008年の一部改正により、事業者に対する規制の強化等が図られた。その後、こうした違法サイトは一時減少したが、一方で規制の網をかいくぐり、巧妙な手法で犯罪行為が続いている。特に、ゲームサイトやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を悪用する手法もあり、もぐらたたきの状況であろう。また、アダルトサイト、違法薬物販売サイト、自殺を誘発するようなサイトなど、違法・有害情報は根絶できない。

こうしたサイトから児童を遠ざけるために、2008年、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2010年に、「子ども・若者育成支援推進法」により改正）が制定された。この法律は、携帯電話事業者、接続プロバイダ、パソコンメーカーに対して、違法・有害情報フィル

タリングの提供の義務を課しており、保護者の責務も明記された。このように、2008 年前後には、ネット問題への関心は高まったが、数年たてばその危機感も薄らいでいる。

違法・有害情報はどのようなものであろうか。日本におけるインターネット（We b）上の違法・有害情報の通報受付窓口である「インターネット・ホットラインセンター」は、インターネット上の違法・有害情報の通報があれば、警察庁に情報提供するとともに、サイト管理者等に送信防止措置を依頼する等の業務を行っている。そこでは、プロバイダや電子掲示板の管理者等に対して削除依頼を行う違法・有害情報の範囲や、通報の必要性のある違法情報該当性の判断基準を規定している。

＜違法情報＞○わいせつ物公然陳列、○児童ポルノ公然陳列、○売春目的等の誘引、○出会い系サイト規制法違反の禁止誘引行為、○薬物犯罪等の実行又は規制薬物の濫用を、公然、あおり、又は唆す行為、○規制薬物の広告、○預貯金通帳等の譲渡等の勧誘と誘引、○携帯電話等の無断有償譲渡等の勧誘・誘引携帯、○識別符号の入力を不正に要求する行為、○不正アクセス行為を助長する行為

＜有害情報（公序良俗に反する情報）＞○情報自体から、違法行為（けん銃等の譲渡等、爆発物の製造、児童ポルノの提供、公文書偽造、殺人、脅迫等）を直接的かつ明示的に請負・仲介・誘引等する情報、○違法情報該当性が明らかであると判断することは困難であるが、その疑いが相当程度認められる情報、○人を自殺に誘引・勧誘する情報

こうした情報（基準）を、教師や保護者が認識しておく必要がある。それによって、児童生徒への注意喚起が可能となり、指導範囲も確認できる。また、遠隔地の学校でも、こうした相談体制があることで、安心感も生まれてくる。

メールやSNSに関する問題 電子メールが日常化しており、コミュニケーション手段の一翼を成している。そのため、違法サイトへの勧誘など、迷惑メールが、頻繁に送出されている現実がある。これに対して、様々な対応をプロバイダ側は、その都度実施しているが、現状ではこれを阻止することは難しい。受信側で対応する機能もあり、受け手側の対応が必要であるが、被害を避けるため不審なメールに返信しないなど、最低限の手法は教えておかないといけない。

また、SNSは、全世界で一般的に活用され、政治体制を揺り動かす大きな力にもなっている。身近な仲間でのつきあいだけだと勘違いすることで、大き

な問題を起こした例も少なくない。

こうした新技術から発生したネット環境は、使う側のリテラシーが不可欠であるが、ゲームサイトなどから入り込むことで、児童生徒の多くが経験者となりつつあるといえよう。では、こういった問題があるのだろうか。代表的なものを挙げてみる。

<メール>○ウィルス添付メール（情報流出、コンピュータ破損）、○迷惑メール（違法・有害情報、架空請求、ワンクリック詐欺）、○チェーンメール（中傷誹謗、デマ）、○メールの誤送信（個人情報流出・情報漏えい）

<SNS>○プロフィール紹介（個人情報流出）、○成りすまし（犯罪行為への巻き込み、不正アクセス）、○ゲーム（課金による損失、生活習慣の乱れ）、投稿（著作権侵害、人権侵害、業務妨害）

このように、ネット上の犯罪やトラブルのほとんどに電子メールのやりとりやSNSが関わっている。特に、保護者にとって分かりにくい交友関係があり、例えば、チェーンメールを転送しないと何が起こるか分からないといった不安などから、多くの人に迷惑メールを転送し加害者となってしまったケースもある。

ネットいじめ 今日、特に問題になっていることが「ネットいじめ」である。近年のいじめ問題においても、インターネットを介在した事例が数多く報告されている。そもそも、いじめには「関係性」という視点がある。森田・清永(1986)のいじめ定義では、「同一集団内の相互作用過程において」という点で、仮に見知らぬ人から、繰り返しのいじめ行為があっても、警察に訴えるなどの解決法は見出し易いが、一定の関係性があるから、内向きとなり、深刻化してくるのである。

一方、ネットいじめの特徴として、Pornari & Wood(2010)は、匿名性、無境界性、群集性を挙げている。関係性という視点ではやや異なってくるが、集団化したり、特定の児童生徒へのいじめを繰り返したりする行為は、同様に存在するといえよう。ただ、ネット環境においては、これまで見知らぬの人であっても、そこに関係性が生まれ、安易な集団攻撃が行われることが想定される。また、1回の書き込みでも、ネットに残り続けるため、無意図的に反復行為となってしまう。このように、加害者が意図に関わらず、厳しい状況を演出していることが、ネットいじめの最大の特徴であるといえよう。

昨今、ネットいじめが社会問題化していることで、いじめ防止対策推進法（法律第七十一号）においても、インターネットを通じて行われるいじめに対する

対策の推進が盛り込まれた。以下にその条文を挙げておきたい。

第十九条 学校の設置者及びその設置する学校は、当該学校に在籍する児童等及びその保護者が、発信された情報の高度の流通性、発信者の匿名性その他のインターネットを通じて送信される情報の特性を踏まえて、インターネットを通じて行われるいじめを防止し、及び効果的に対処することができるよう、これらの者に対し、必要な啓発活動を行うものとする。

2 国及び地方公共団体は、児童等がインターネットを通じて行われるいじめに巻き込まれていないかどうかを監視する関係機関又は関係団体の取組を支援するとともに、インターネットを通じて行われるいじめに関する事案に対処する体制の整備に努めるものとする。

3 インターネットを通じていじめが行われた場合において、当該いじめを受けた児童等又はその保護者は、当該いじめに係る情報の削除を求め、又は発信者情報（特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律（平成十三年法律第百三十七号）第四条第一項に規定する発信者情報をいう。）の開示を請求しようとするときは、必要に応じ、法務局又は地方法務局の協力を求めることができる。

ここでは、啓発活動だけでなく、体制の整備、関係機関の協力支援など、学校だけの取り組みでは不十分であることが明文化されている。

ネット問題への対応 どんなに危険であると指導しても、児童生徒がトラブルに巻き込まれる事案はなかなかなくなる。その大きな要因は、インターネットが、親しく身近な人だけのコミュニケーションではなく、全世界とつながっている環境であることが十分理解できていないことにある。また、情報が各地のサーバーを介して行われているというイメージがつかず、書き込みが残り続けるという点がどうしても理解できないのである。そのため、児童生徒は、学校内で起きたトラブルを、そのままパソコンや携帯電話を介して、Web上にアップしたり、誹謗中傷の書き込みをしたりすることがあるが、それが大きな問題に発展するのである。ここで、ネット問題への対応をいくつか挙げておきたい。

① 教員として必要な知識を得る

まず、ネットの現状や関連法令などを十分に把握しておく必要がある。これが不足していることが、指導が後手に回る大きな理由である。問題が顕在化しても、適切な対応ができていない状況にある。例えば、ネットいじめにおいて、不適切な書き込みがあっても、簡単に削除できず、問題が深刻化するケースがある。ここでは、通報・相談機関などと連携して、解決を目指すことが必要で

ある。この場合、「プロバイダ責任制限法」によって、発信に用いられた接続プロバイダや掲示板運営者に対し、削除の申し出や、発信者情報の開示を請求できるという法整備もなされている。そもそも匿名性があると思われがちなネット環境も、通信履歴などで、本来「匿名性」は存在しないのである。学校だけでは解決できないことが多いのが、ネット問題といえよう。

② 情報モラル教育を実施する

インターネットや携帯情報端末の利便性など「光の部分」と、社会問題化している「影の部分」を共に理解させ、あわせて、適切なコミュニケーション活動について指導を行う必要がある。この場合、技術・家庭科など教科教育と連携したり、総合的な学習の時間を活用したりするなど、学校全体で実施することが重要である。なお、情報モラル教育などの具体的な取組については、「教育の情報化に関する手引」（文部科学省発行）などにまとめられている。

③ 保護者と連携する

保護者は子どもの要求から、安易に携帯電話を与えてしまうことがある。その上、使い方までは認識していないため、フィルタリングを外したりしてしまうこともある。その結果、保護者に隠れて危ないサイトなどに接続していることもあり得るため、保護者の啓発活動は欠かせない。あわせて、児童生徒の動きを情報共有し、危険な行動を防ぐ努力も必要である。

④ 関係機関と連携する

警察、情報機器関連団体、業界等との情報交換は欠かせない。場合によっては、専門家による教員研修も効果的である。技術はどんどん先に進んでいるが、学校はそれに追いつかない状況であり、それを補完することも必要である。

（参考引用文献）

1. ホットライン運用ガイドライン検討協議会（2013）ホットライン運用マニュアル 9-24
2. Pornari.C.D., & Wood.J.(2010) Peer and cyber-aggression in secondary school students: The role of moral disengagement,hostile attribution bias and outcome expectancies,*Aggressive Behavior*,36,81-94.
3. 阪根健二、戸田有一、吉井健治（2013）ネットいじめや「ケータイ問題」に関する教師の知識の現状把握と指導の改善について、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））研究実施状況報告書 1-6

（註）本稿は、日本生徒指導学会（編）『現代生徒指導論』の原稿を加筆したものです。

ケータイ・ネットいじめ指導資料

(小学校低学年から中学年用)

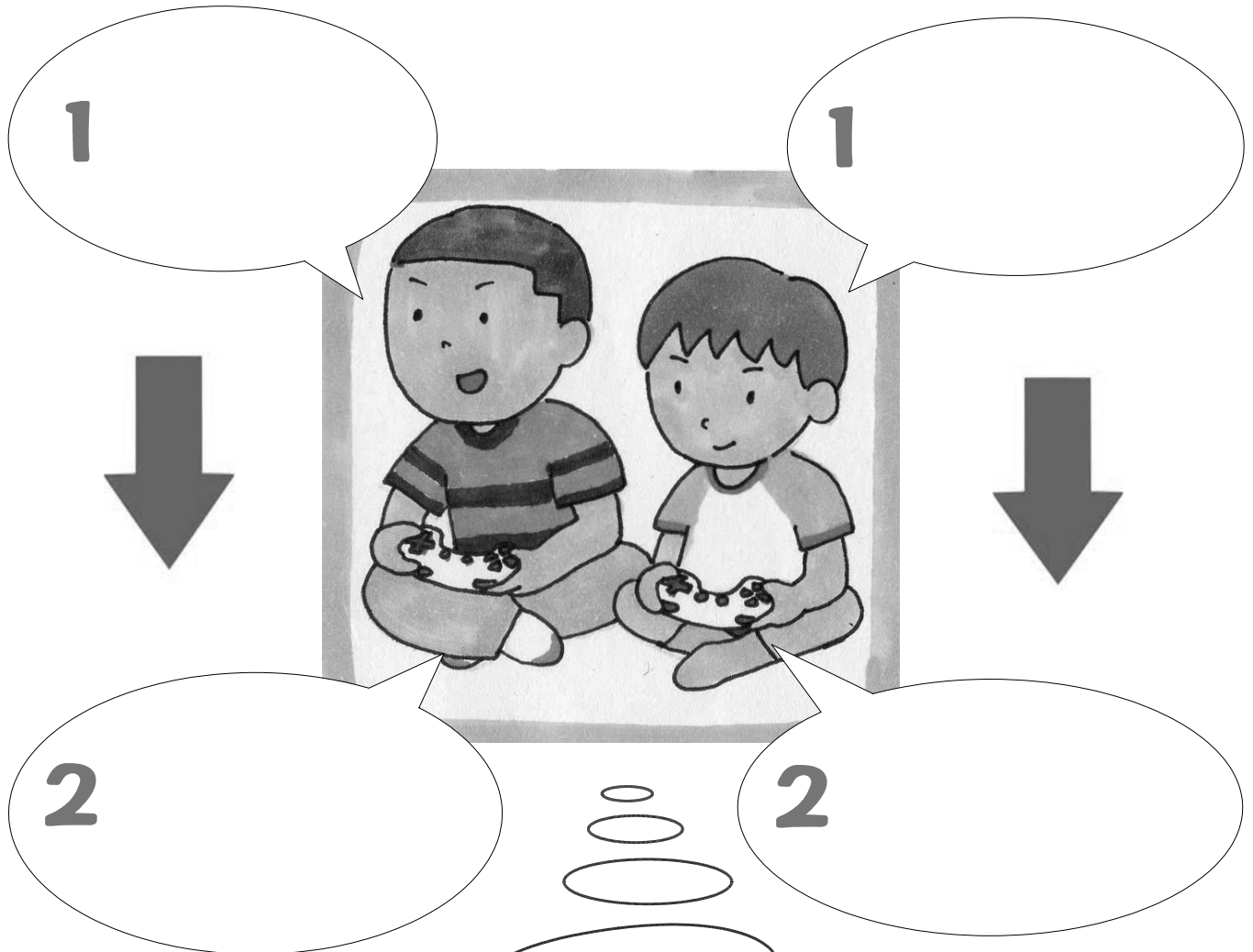
- ① ことばについてかんがえよう
- ② あやまることはだいじなこと
- ③ なりすまし
- ④ なかまはずし
- ⑤ 写真にらく書き

鳴門教育大学 教職大学院阪根研究室

担当リーダー 松浦弘子

① ことばについてかんがえよう

どんなことを言いながらゲームをしているのかな？



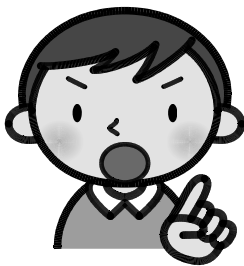
ゲームをしている
ときって……

じぶんのせいかつの中でも、つかってはいませんか？

つかっている ・ つかっていない

どのようなときに つかっていますか？

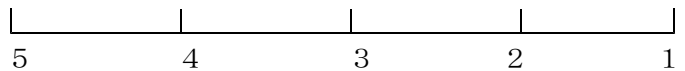
なぜ 友だちに言ったら いけないのでしょうか？



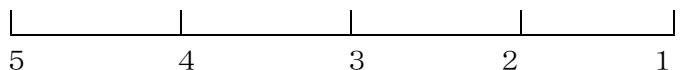
これからは どんなことばを つかったらいいかな？
左のふきだし 2 に書いてみよう。

ふりかえり

- 人をきずつけていることばがわかった。



- これからは、ことばをよく考えてから言おうと思った。



おうちの人と話し合ったこと

「ゲームが子どもに与える影響を考える」

子どもたちは様々なゲームをして遊んでいます。気になるのがゲームをしている時間や内容です。ゲームをしている時間が長く、深夜までゲームをしている児童も少なくありません。朝からあくびが出たり顔色が悪かったりする子どもが多いのが現状です。また、ゲームの最中に「死ぬ」や「殺す」などの言葉を交わしているのも気になるところです。ここでは、ゲームのしすぎが心に及ぼす影響を考えていきます。そして、ゲームの世界と現実との違いがわかり、生活の中の嫌な言葉をなくしていくことがねらいです。

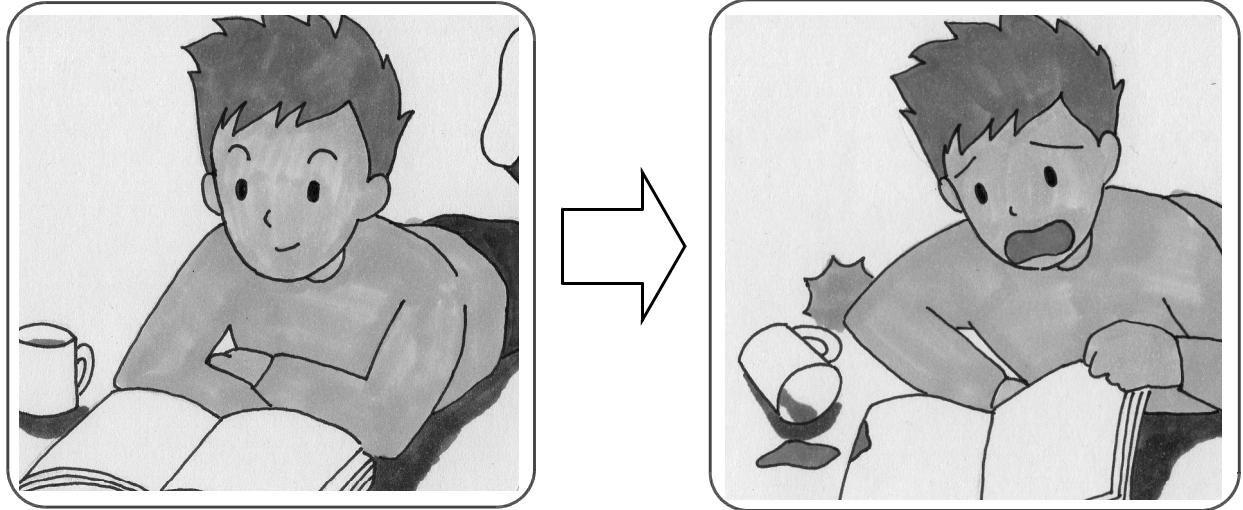
題材名 「言葉について考えよう」

〈ねらい〉 ゲームをするときの言葉や、友だちに対する言葉に気をつけながら、よりよい生活をおくることができる。

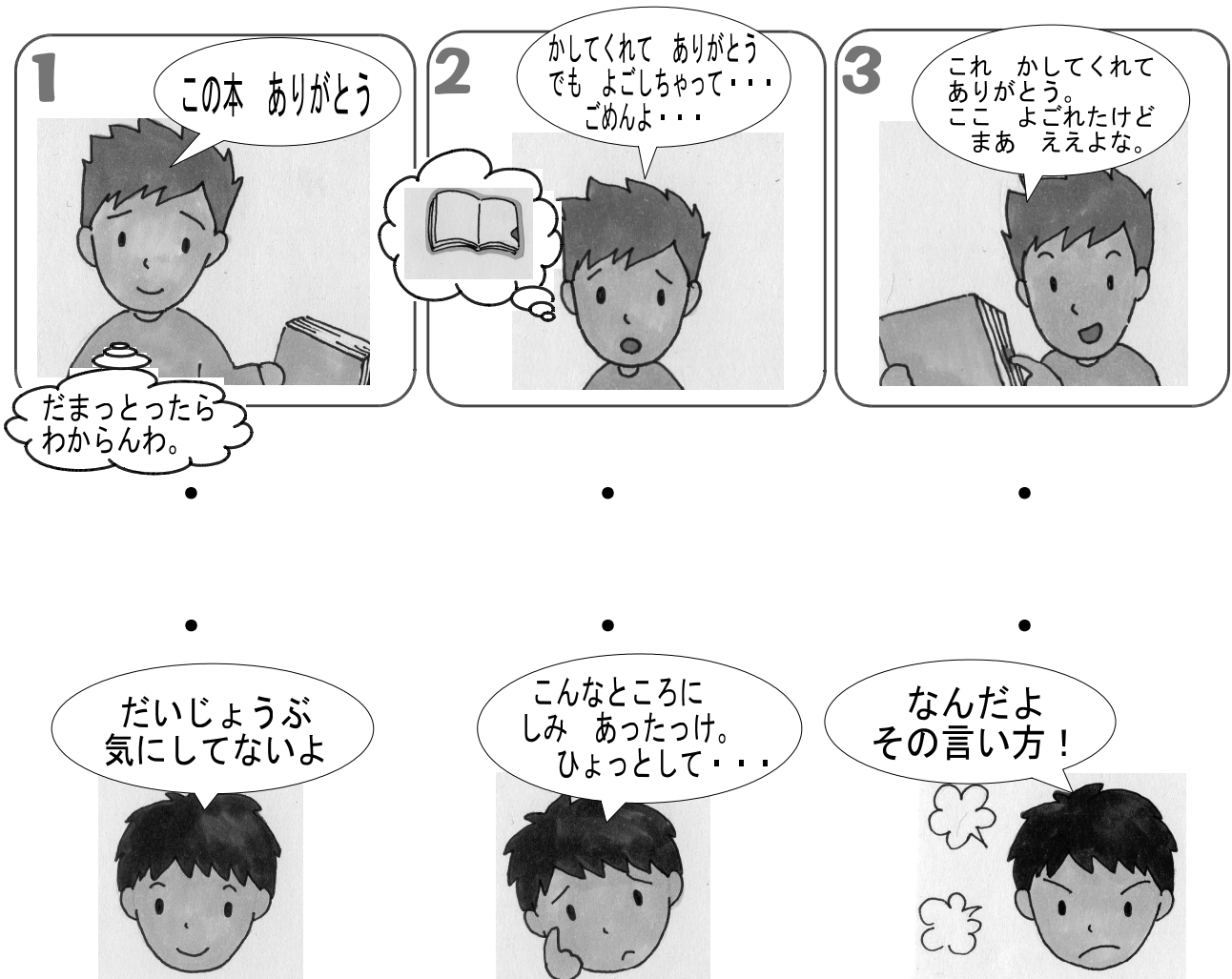
	学習活動	予想される児童の反応	留意点
導 入	1. ゲームの場面（画像）を見せる。 （死ぬ、殺す、リセットの場面）	これ、知っとう。 いつもしようなあ。	・児童から出てきた言葉を展開につなげていく。
展 開	2. 場面を見てどんな言葉を使っているか思い出す。 ゲームをしているときの気持ちを出し合う。 3. 自分の身近な生活の中で、友だちに使っている攻撃的な言葉に気づかせる。 4. 絵本を読んで、言葉の意味を考える。 5. なぜ言ったらいけないかを考える。	・しんだけん、ボタン押しでもう一回する。 ・これは、しんだってこと。 ・命まだあるし。 ・楽しい。 ・おもしろい。 ・腹が立ったらすぐに言っ てしまっている。 ・一緒にいたくないと思っ たとき。 ・死ぬことはいなくなっ てしまうこと。 ・遊べなくなる。 ・こわい。 ・つらい。 ・いなくなってもいい。 ・はらがたつ。	・画面の場面説明をするよ う声かけをする。 ・ワークシートの1の吹き 出しに言葉を書く。 ・イラスト下の吹き出しに 気持ちを書く。 ・2で出てきた言葉をいつ どんな時に使っているか再 確認する。 ・無意識に言っていること に気づかせる。 ・「いつでも会える」を読 み、言葉の重さを知るよう にする。（お墓の場面まで） ・言葉が人に与えている影 響を知り、きれいな言葉を 心がけていくよう伝える。
ま と め	6. ゲームでこの場面になったとき はどんな言葉を使ったらいいか考 える。	・やられた。 ・ざんねん。 ・まだチャンスあるよ。 ・リセットしよう。	・ワークシートの始めにも どり、2の吹き出しに使っ たらよい言葉を書く。

② あやまることはだいじなこと

1. 友だちからかりていた本をよごしてしまいました。



2. あなたなら、どうしますか。お話になるように線をつなぎましょう。



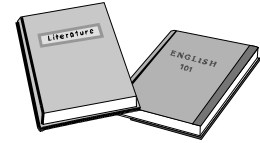
3. それぞれの場合の その後について 考えてみましょう。

1 の場合	[]
2 の場合	[]
3 の場合	[]

〈例〉 ノボルがおこって先生に言った！ ノボルとケンカになる！
 きつとなかよくできる！ ノボルの家の人がおこってきた！

4. 自分が悪かったことをはんせいして、あやまったらゆるしてもらえます。
どのようにあやまったらいいですか？

〈ヒント〉自分の家の人にそうだんしてもいいですね。



ふりかえり

○ 悪いことをしてしまった時は、すぐにあやまろうと思った。

5	4	3	2	1

○ ほうっておくと、とんでもないことにつながるということがわかった。

5	4	3	2	1

おうちの人と話したこと

「あやまることは大事なこと」

友だちと遊んだり関わったりしていく中で、自分はそのつもりはなかったけれど友だちが嫌な思いをすることがあります。また、たまたま手があたったことや足を踏んでしまったことなど些細なことでケンカになってしまうことがあります。そんな時、「わざとじゃないから。」といつまでもつっぱって謝ろうとしない時があります。そんなつもりではなかったことも、「ごめんね。」という一言で相手と仲よくできるということを学んでほしいものです。ここでは、友だちから借りていた本を汚してしまったが、どのように返せばよいか考えることを通して謝ることの大切さを学ぶための学習です。

題材名 「あやまることはだいじなこと」

- 〈ねらい〉・自分では少しのことと思っていっても相手が嫌な気持ちになることがわかる。
・自分のしたことを認めて相手に謝ることができる。

	学習活動	予想される児童の反応	留意点
導入	1. 友だちと些細なことで喧嘩になったことを思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・手があたってしまった。 ・ロッカーのカバンのひもに足がひっかかった。 ・友だちのものを壊した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活の中でついつい起こっていることをたくさん出させる。
展開	<p>2. 友だちから借りていた本を汚してしまったとき、どうするか考える。</p> <p>3. ワークシートの3つのパターンについて、それぞれの返し方がどのようなになるかを考えさせる。</p> <p>4. さらにその後どうなっていくかを想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黙って返したらあかん。 ・説明して謝る。 ・黙って返しても相手に気づかれると思う。 ・きちんと謝ったら許してくれる。 ・友だちに本を返すときの言葉や表情がいけない。 ・怒ってけんかになるかも。 ・家の人も怒ってくるかも。 ・仲よくできないかも。 ・謝らないともやもやする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここではワークシートを見せずに個々に想像して考えてもよい。 ・友だちの反応につながるように話の展開をつなげる。 ・友だちの表情や吹き出しの言葉から、想起させワークシートに書いていく。
まとめ	<p>5. 導入で出し合ったことなどについても、謝り方を考えていく。</p> <p>6. ロールプレイした感想を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家の人と謝りに行く。 ・「ごめん」ってすぐに言う。 ・正直に話す。 ・謝ると自分も相手も気分がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で出てきた様々な場面をロールプレイしてみる。 ・謝ることでお互いの気持ちとが和らぐことを実感する。

③ なりすまし ～黒板のらく書き～



クラスみんなは、ノボルくんが書いたと思ってしまったようです。
ノボルくんは、どんな気持ちでいるでしょう。

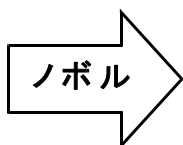
ワイワイ

ガヤガヤ

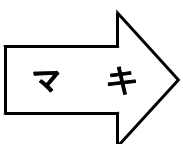


この！の書き方、ノボルくんじゃないよ。とアキラが言いました。
では、だれが書いたのでしょうか？

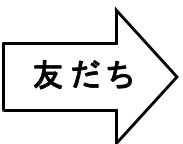
ノボルやマキ、まわりの友だちはどうすればいいのでしょうか？



Dashed rectangular box for writing a response to Noboru.



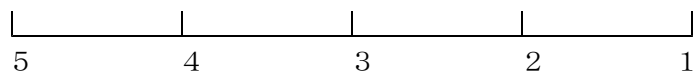
Dashed rectangular box for writing a response to Maki.



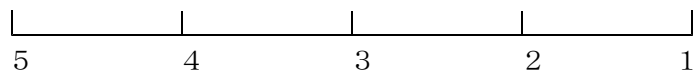
Dashed rectangular box for writing a response to friends.

ふりかえり

○ らく書きは、たくさんの人につたわり、いやな気持ちになることがわかった。



○ ちがう人になりすまして書くことは、人をきずつけることがわかった。



おうちの人と話し合ったこと

「なりすまし」 ～黒板のらく書き～

教室の中で、おとなしい子、あるいは普段言いたくても言えない子が、心の中のイライラや不満を出すことができないため、落書きをしたり物をかくしたりすることがあります。放課後、たまたま1人になった教室で、自分の気持ちを黒板に書くことは、小学生にはありがちなことです。しかも、今回の場合は友だちの名前を書いています。これは、インターネット上で起こっている『なりすまし』とよく似ています。このような事件に発展しないためにも、小さいうちから人の名を騙ることの事の重大さをしっかりと理解する必要があると思われます。また、事実かどうかわからないことをその場の判断だけで決めつけてしまう怖さについてもおさえないものです。

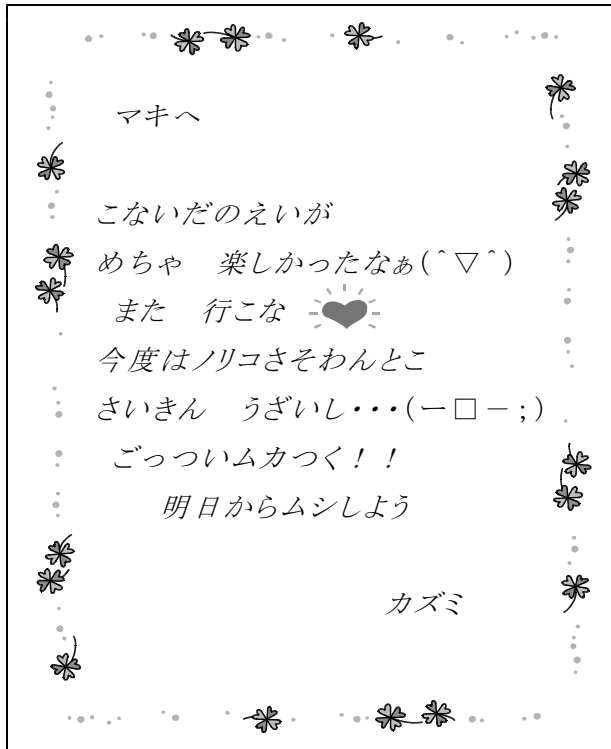
題材名 「黒板にらく書きをするとどうなる？」

〈ねらい〉 落書きをするとたくさんの人に伝わり、大変なことになることがわかる。
自分の名前を勝手に使われたときの腹立たしさや悲しみを理解する。

	学習活動	予想される児童の反応	留意点
導 入	1. 黒板の落書きを見せる。		・あらかじめ書いておき、その部分を隠しておく。
展	2. 黒板を見てどんなことを感じたか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・うざーはひどい。 ・えこひいきってことは、先生に書いとうよ。 ・腹が立つ。 ・これ、ほんまにノボルが書いたんかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好ましくない言葉が出てきたときは、言葉の使い方を指導する。 ・名前が書いてあること、情報の真偽に着目させたい。
開	3. 自分の名前を使われたノボルの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、書いてないのに。 ・なんでぼくの名前を書いたんだろう。ひどい。 ・みんなぼくがしたと思ってているじゃないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで起こっているよく似た事柄を取り上げる。(手紙やメールなど) ・なぜ人の名前を使ってはいけないのかという視点で考える。
	4. だれが書いたか想起し、それぞれの立場で解決法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ではっきり言うべき。 ・あやまらなくてはいけない。 ・ノボルがしたと思うのは間違っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場で考えると同時に、なぜそう考えたかを話し合うようにする。
ま と め	5. 内容をうのみにしないで、人を思いやることについて話をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・勝手に決めつけないで友だちの気持ちを考えていきたい。 ・人の名前を使ってのいたずらは絶対に許されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で友だちのことをやさしい目で見られるような雰囲気づくりをしていく。

④ なかまはずし

なかよしの友だちからもらった手紙です。



てがみのなかからいやなことば
を見つけて書きましょう。

--	--	--	--	--	--

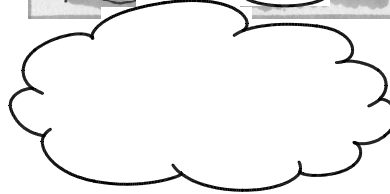
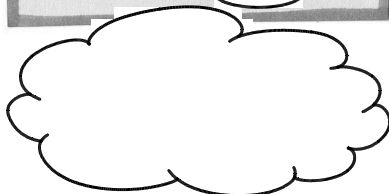
--	--	--

--	--	--	--

--	--	--	--	--

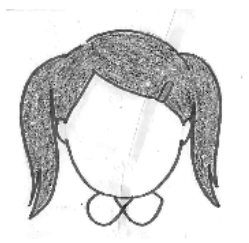
3つのパターンについて考えていきましょう。

- 1 いっしょにムシする。
- 2 カズミがいないところで、ムシしない。
- 3 ムシするのはいけい
と言う。



カズミはどんな気もちで手紙を書いたのでしょうか？

〈ヒント〉手紙を書いた理由を想像してみよう。



ノリコの悪口が書かれた手紙をもらったマキはどんな気もちになったでしょう。

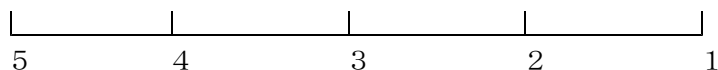


このような手紙を書いて、1のパターンになったとします。ノリコさんはこの後どうなっていくでしょうか？

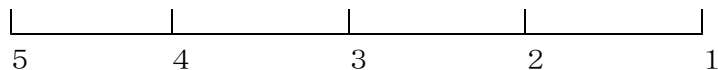


ふりかえり

○手紙を書くときは 相手の顔や気持ちを考えるようにしたい。



○イライラしているときには手紙を書いたりせず 相手と話ができるようにしたい。



おうちの人と話し合ったこと

「なかまはずし」

お手紙のやりとりは女の子の間でよくしています。しかし、中学年頃になってくると、手紙を通して友だちを傷つけたり、いじめにつながったりしていくことも少なくありません。手紙は、書いているときに相手の顔が見えないことから、衝動的になって、相手のことを考えずに書いてしまいがちです。ここでは、その場にいない相手の気持ちや表情を想像できるようにしていきたいと考えます。お手紙などで相手に伝えるという学習は国語科など様々な教科で扱っています。相手にどのように伝わるかを考えて書いたり読み直したりする習慣も身につけたいものです。また、このような場面に遭遇した時は、勇気を持って正しいことを正しいと言えるような児童に育ててほしいと思っています。そして、相手の意見に耳を傾け尊重できる学級にしていきたいものです。

題材名 「なかまはずし」 ～お手紙～

〈ねらい〉 手紙に悪口を書くことは絶対に許されないことがわかる。

手紙などを使って友だちを仲間はずしにすることは、いじめにつながることをわかる。

	学習活動	予想される児童の反応	留意点
導入	1. 手紙を読んで、いやな言葉を見つけて書き出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・いやな手紙やなあ。 ・うざいって書いてる紙を拾ったことある。 ・この言葉よく聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にこれとよく似たことがあったか思い出させる。 ・相手を傷付けている言葉に改めて気づく。
展開	2. もし、このような手紙をもらったらどうするか3つのパターンで考える。 3. それぞれの立場になって、気持ちや表情を考える。また、その後どうなっていくかを予想する。 (顔の中に表情を書きこむ) 4. カズミはどうすればよかったのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・無視するんはいややけど。 ・言うこと聞かな怖い。 ・無視せな自分が仲間はずしになるかもしれん。 ・カズミは前にノリコとけんかしたのかもしれない。 ・こんな手紙もらったら困る。 ・マキは無視するかしないか迷うと思う。 ・ノリコは仲間はずじになる。 ・いらいらしたときに手紙を書くのはよくなかった。 ・本人と話すのがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の下の吹き出しにマキやノリコの気持ちを書かせる。 ・自分がこの場面に出会ったらどうするかも考えるようにする。 ・わからない子はワークシートのヒントを見て考えるようにする。 ・考えたことを発表し合い、考えを深められるようにする。手紙に悪口を書くことは許されないことをおさえる。 ・インターネット上での誹謗中傷を防ぐ方法の一つとして役立てたい。
まとめ	6. 手紙やメールで伝えるときの注意点をおさえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい気持ちで書く。 ・イライラして書くとかだめ。 ・読み直してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔が見えなくても、相手の気持ちを考えるよう促す。

⑤ 写真にらく書き

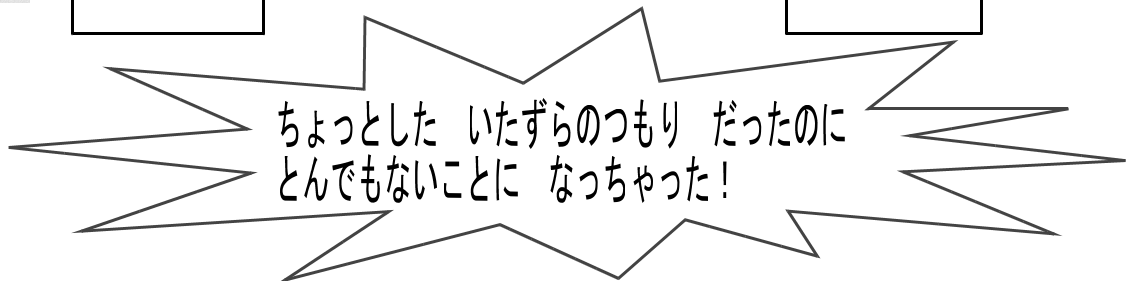
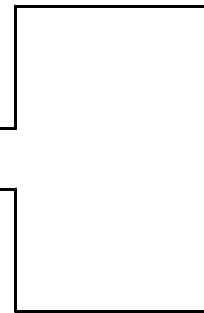
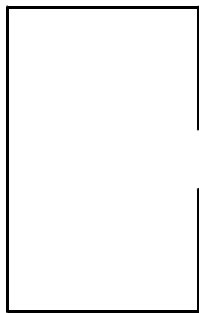
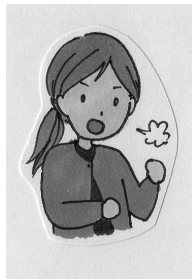
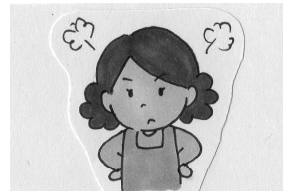
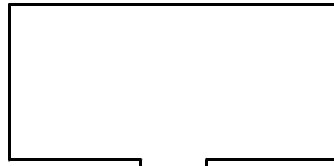
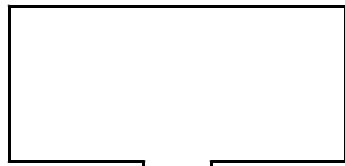
1. アキラの家に行って、パソコンの写真を見ていました。



2. アキラはわらってるけれど、本当に楽しいのでしょうか？

3. もし、この写真をインターネットの「けいじばん」にのせると、だれが見ますか？

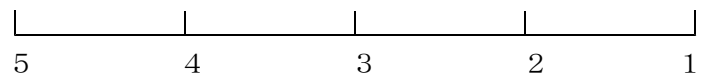
4. 「けいじばん」にのせると、どんなことになるでしょう。想像してみましょう。



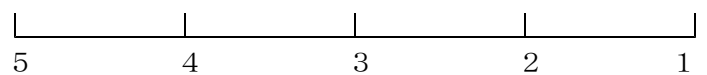
5. なぜ、人の写真にらく書きをしてはいけないのでしょうか？

ふりかえり

○ 写真をつかってのいたずらは、ぜったいにゆるされないことがわかった。



○ 相手が変わっていても、きずついていることがあることがわかった。



おうちの人と話し合ったこと

「写真に落書きしたら」

教科書やポスターの写真，または友だちの持ち物にふざけて落書きをして楽しんでいる子どもを見かけたことがあります。人の顔などに落書きをすると楽しいのかもしれませんが，された人のことを考えているでしょうか。現在では，インターネット上で写真を扱ったトラブルが多く見られます。写真に落書きをすると，された人は大変嫌な気持ちになることを，この学習で理解してほしいと考えています。ここでは，している側とされている側が同じ場所にいますが，されている側も笑っています。心の中ではどのように思っているのか話し合い，様々な場面で相手の気持ちを考えられるようになってほしいものです。

題材名 「写真にらく書き」

〈ねらい〉 写真に落書きをすると，多くの人が嫌な気持ちになることを理解し，写真を使ったいたずらはしないように気をつける。

相手が笑っていても心の中で感じていることは違っていることに気づく。

	学習活動	予想される児童の反応	留意点
導入	1. 教科書やポスター，広告，友だちの持ち物などにふざけて書いた経験を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の写真のおじさんにひげ書いた。 アルバムの写真に字を書いたり，シールを貼ったりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真の加工についていい面もあるので，よいことと悪いことを区別させておく。
展開	2. ワークシートの漫画を読んでそれぞれの気持ちを考える。 (吹き出しに書き込む) 3. 写真をインターネットの掲示板に載せると誰が見るか考える。 4. もし，掲示板に載せたら，どんなことになるのか予想する。 5. なぜ，人の写真に落書きをしてはいけないか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちは楽しそうだけど，アキラはどうか？ アキラは笑っているけど楽しくないと思う。 家族の人が見ると思う。 アキラの兄弟。 知らない人。 いろいろな人が見て嫌な気持ちになる。 アキラの家の人怒る。 アキラが一番悲しい気持ちになる。 人を悲しませる。 相手を傷つけることになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真に落書きをすると，された側は嫌な思いをすることをおさえる。 ワークシートの3に書き込んでいく。 インターネットは多くの人が見ていることに気づかせる。 写真の落書きは相手を傷つけることを話し合うようにする。
まとめ	6. 普段から自分や友だちの持ち物，公共物に落書きをしないように話をする。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちのものに落書きをしないようにしたい。 笑っているから楽しいのではないことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に目を向けて，ネットトラブルにもつながることを意識させる。

いじめ指導に使える映像教材

1 映像教材の特徴と効用

- ・動きを含む意味を提示できることで情報量を拡大できる。
- ・何回でも再生できる。
- ・注意を集中させたり、現実感を高めたりすることができる。それによって、抽象的な内容も、態度に影響を与え変容させることができる。
- ・教室の中にリアル感を持ち込める。共通の経験をもてる。

2 視聴覚教材の特性（一般的な教育論から）

- ・イマジネーション（参照機能）：事象を具体的に理解・把握させ、想像力を喚起する特性
- ・モチベーション（情動機能）：感性的・感情的、影響を与え、動機づけとなる特性
- ・アナロジカル（類推）：言語メッセージに比べ、対応する概念との関係がゆるやかで多義的である。
- ・リダンダンシー（冗長）：時間軸に添ったシーケンシャルな表現により、時間的観念や感動が与えられる。

3 使用するいじめ映像について

例として、スウェーデンのいじめ撲滅 NPO 団体“Friends” (<http://www.friends.se/>) による広報映像が有名である。この団体は、政府からの支援も受け、いじめ対応を主としている。なお、映像の取得場所は、同 NPO 団体の Web 内からであるが、現在は、YOUTUBE 等の投稿ページから取得できる。（他にも多くの映像が貯蔵されている。）

（映像内容）

赤毛ということ（欧米では赤毛がいじめの対象になりやすい）で、いじめられる男の子の話である。

4 著作権について

授業で使う際には、著作権法第 35 条から、出典を明示すれば問題ない。なお、2012 年 4 月に、直接、NPO（フレンズ）に照会した結果、「著作権の所在が不明確なまま作成したため、許諾する立場にはないが、研修等での使用において、問題はない。」との確認をとっている。



（実際の映像）

ケータイ・ネットいじめ指導資料

(小学校高学年から中学生用)

- ① ネットいじめについて考えよう
- ② ネット依存
- ③ チェーンメール
- ④ 仲間はずし
- ⑤ ネットのルール

鳴門教育大学 教職大学院阪根研究室

担当リーダー 宮原麻夕子

① ネットいじめについて考えよう

☆「いじめ」と聞いて思いつくことはどんなこと？一番されていやなことをあげてみよう。

☆いじめる人は、どうしていじめてしまうのだろう？

自分が経験した気持ちや、取ろうとした行動から考えてみよう。

☆「ネットいじめ」という言葉を聞いたことがありますか？（ ある ・ ない ）

ネットいじめについて、知っていることを書きましょう。

☆ある調査では、小学生のいじめの件数が増え、インターネット上のいじめも年々増えているそうです。なぜ「ネットいじめ」が増えたのでしょうか。

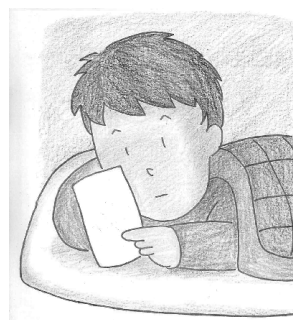
①自分の考えを書いてみましょう。

②グループで話し合ってみましょう。

これからネットいじめで実際に起こったことを学習します。ネットいじめがもたらす影響や困ることを考えながら、よりよいネットや友達とのつきあい方を考えましょう。

②

その習慣「ネット依存」かも？



3つの絵を見て、感じたこと、気になったことなどを話し合しましょう。

ちょっと待って！

自分たちにも経験ないかな・・・？

自分の意志でやめられない状態のことを
依存(いぞん)といいます。

「ゲーム、いいところだからもうちょっとやりたい!!」
「ネットが気になって勉強が手につかない」
「メールのやり取りをされていて、ねるのがおそい」
などの経験はありませんか？

自分の経験を書いてみましょう。

「ネット・ゲーム時間チェックシート」を振り返ってみましょう。

自分のネット・ゲーム時間を調べてみて

☆ネットに依存すると、どんな問題が起こると考えられますか。

①自分が思う問題をふせん紙に書いてみましょう。



やり方は「**自分の考えを出そう！伝えよう！～ふせん紙を使って～**」を見てください。

②グループで出た意見を仲間分けしてみましょう。

学業面



ネット依存は

身体面



精神面



人間関係



※ネット依存で起こる脳の変化を考えてみてもいいですね。

☆ネットやゲームをしている時間の代わりに、どんなことができそうですか？
グループで話し合って、改善策を書いてみましょう。

☆まとめ

今日の学習をして

おうちの人と話し合ったこと・保護者の方から

インターネット依存症・スマホ依存症 チェックリスト

以下のあてはまるものにチェックしてみましょう。5つ以上チェックが入ったら要注意です。

<インターネット依存チェック>

- 予定していたより長時間ネットを利用してしまう
- ネットを利用していない時も、ネットのことを考えてしまう
- ネットを利用していないと、落ち着かなくなったり、ゆううつになったり、落ち込んだり、イライラしたりする
- ネットの利用時間を減らそうとしても、失敗してしまう
- 長時間ネットを利用していないと満足できなくなる
- 落ち込んだり不安やストレスを感じたりしたとき、逃避※や気晴らしにネットを利用している
- ネットの利用が原因で、家族や友人との関係が悪化している
- ネットを利用している時間や熱中している度合いについて、ごまかしたりウソをついたりしたことがある

※逃避：困難などに直面したとき逃げたり意識しないようにしたりして、それを避けること。

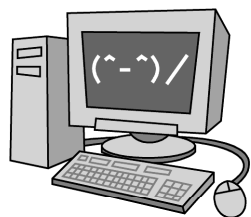
<スマホ依存度チェック>

- スマホを忘れてしまった日は、とても不安になる
- TPOをわきまえず、無意識にタッチパネルをさわっている
- 「スマホの充電ができるか」「Wi-Fi*があるかどうか」などで、入るお店を決める
- 財布を忘れていても、スマホだけを持っていることがある
- 朝、目が覚めて寝転がったままニュースやSNSをチェックする
- わからないことは、すぐにスマホで調べる
- スマホの充電器を忘れたら、つい買ってしまうので、いくつも予備を持っている
- スマホ画面の見すぎにより、目の下にクマができています
- 着信していないのに、スマホが振動した錯覚におちいる
- スマホをにぎったまま眠ってしまう

※Wi-Fi：無線で通信する機器がお互いに問題なく接続可能になる方式の名称。

ネット・ゲーム時間チェックシート（5日版）

電子機器が世の中に出回って、便利な機能がついたことによって、インターネットが生活に身近なものとなりました。みなさんもインターネットを使う機会が多いでしょう。☆ふだんの生活で使う電子機器（インターネット機能付き）を○で囲んでみましょう。



パソコン



ゲーム機



携帯電話・スマホ



タブレット

【「ネットいじめ」の学習を始める前に】

ふだんの生活でどれだけインターネットを使っているか、5日間時間を記録しましょう。

【「ネットいじめ」の学習を終えてから】の5日間も、時間を記録してみましょう。

学習を始める前			学習を終えて		
月	日()	: ~ :	月	日()	: ~ :
月	日()	: ~ :	月	日()	: ~ :
月	日()	: ~ :	月	日()	: ~ :
月	日()	: ~ :	月	日()	: ~ :
月	日()	: ~ :	月	日()	: ~ :
電子機器を使ってしたこと			電子機器を使ってしたこと		
調べ物 SNSサイト			調べ物 SNSサイト		
ゲーム 動画を見る 音楽をきく			ゲーム 動画を見る 音楽をきく		
ダウンロード メール			ダウンロード メール		
その他 ()			その他 ()		
気がついたこと			気を付けたこと		
おうちの方から			おうちの方から		

ネット・ゲーム時間チェックシート（1日版）

☆今日生活で使う電子機器（インターネット機能付き）を○で囲んでみましょう。



調べ物

メール

SNS

ゲーム

動画

音楽

お絵かき

	やったこと	した時間に○
5:00以前		
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		
13:00		
14:00		
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		
23:00		
0:00以降		

その習慣「ネット依存」かも？（指導案）

インターネットが急速に普及したことによってゲーム機や携帯電話を初めて所持する年齢も若年化し、子どもたちが常にネットに触れる機会が増えています。便利さの一方で、ネットの世界にのめり込み、常にネットに触れていなくてはならない「ネット依存症」が急増しています。現在不登校やいじめ、ひきこもりなど子どもを取り巻くさまざまな問題が浮上していますが、その問題の陰にはネット依存症が隠れていることが分かってきました。ネット依存症は生活リズムの大幅な乱れからくる身体面の影響だけでなく、精神面、対人面、学業面などにおいても悪い影響を及ぼします。自分自身のネット使用時間を振り返る活動とともにネット依存症が引き起こすさまざまな影響について、子ども自身が正しく理解するための学習です。

題材名「その習慣『ネット依存』かも？」

- ねらい
- ・ ネット依存症が急増している現状から、ネットへの依存がさまざまな面で悪影響を及ぼし、自分自身でコントロールすることができない状態になることを理解する。
 - ・ 自分自身とネットとのかかわりを見直し、ネットと正しくつきあおうとする態度を育てる。

※事前に5日間ほど「ネット・ゲーム時間チェックシート」で、児童・生徒のネットやゲームの使用時間や行動を確認するとよいでしょう。（5日版、1日版）

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 3つの絵を見て感じたことを話し合う。 (食事中、勉強時間、ベッド)	・ 食事中なのにケータイ？ ・ 勉強してない。 ・ 自分もしているかも。	ついネットをしてしまっている状況を出させる。 (例) 自転車に乗りながら病院の待合室
展開	2 ネットやゲームについて夢中になってしまった時の経験やネット使用時間について話し合う。	・ 「あとちょっと」という時になってやめられなかった。 ・ 親に注意されても続けた。	・ 「依存」の言葉の意味をおさえる。 ・ ゲームでの依存もネットと同様であることに触れる。
	3 ネットに依存するとどんな問題が起こるのかを話し合う。	・ 寝不足になる・イライラ ・ 成績の低下・集中できない ・ 人間関係がうまくいかない	・ 付箋紙に自分の考えを書き出し、個々で出た意見を、グループで集めて分類する。
	4 グループで話し合ったことを発表し、ネット依存に陥った時の症状についてまとめる。	・ ネットを長く続けていたら自分もなりそうだな。 ・ 体だけでなく心の面でも影響があるんだ。	・ ネットをしている時の脳の状態からそれに伴う行動につながるように説明し、ネット依存の怖さに迫っていく。 ・ ネット依存によって失うものが多くあることを理解させる。
まとめ	5 ネットに費やす時間を別の行動に置き換えてみる。	・ やらなければならないことがあったのに、できなかったことがあったよ。 ・ 心がけ次第でネット時間を減らせそうかな。	・ ネットやゲームのために切り詰めたり削ったりしたことを思い出させ、その時間が自分のことに使えることに気づかせる。

③ チェーンメールがとどいたら…?

ノリコのもとに一通のメールがきました、同じクラスの親友であるカズミからでした。指名で、チェーンメールが回ってきたのです。

差出人：カズミ
件名：至急！

本文：
指名キター！
<マイ・プロフィール>
○名前 ○年齢 ○生年月日
○学校 ○クラス ○好きなこと
○担任の先生の名前 ○担任の先生は好きか
○このクラスが好きか
○友達との写真や動画
○インターネットで取り込んだ画像 など…

☆ここまでの内容を読んで、考えを書きましょう。
あなたは、このチェーンメールを・・・(○で囲みましょう)

回 す ・ 回 さ な い

その理由は？

☆もう少し読んでみましょう。

…『誕生日の月と日の合計の人数分の人、指名よろしくー(^_^)』
ノリコの誕生日は12月31日。12+31=43人、もう時間は12時を回っていますが、ノリコは知っている限りの友達をどうにか43人集めて、メールを回しました。

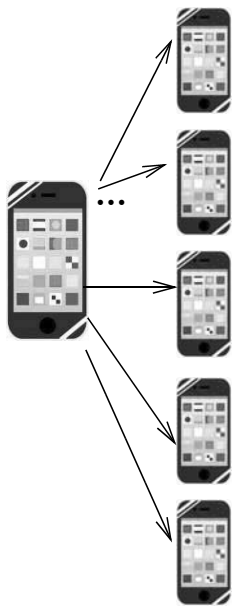
そして次の日…

「みんな、おはよ！」
ノリコが声をかけても友達はノリコをさけています。仲良しのミホからも「ノリコ、ちょっといいかげんにしてよ！」と言われました。一体どうしたのでしょうか。

☆周りの友達なぜノリコをさけてしまったのでしょうか。
物語を振り返りながら、その原因を考えてみましょう。

チェーンメールのしくみを知ろう！

ノリコは、43
人に送っている
から、5回送る
と何と
134375 人に !!



- 1人が5人の人に送ると
- ②次の5人は (25) 人へ
- ③次の (25) 人は (125) 人へ
- ④次の (125) 人は (625) 人へ
- ⑤次の (625) 人は (3125) 人へ

これだけの人にいっせいにチェーンメールが送られると…?

人の好ききらいをのせると…?

友達の写真を勝手に送ると…?

これらの情報は一度流れると… () !

☆下の3つのメールは、実際にチェーンメールで送られたものです。
このようなメールが自分のところに届いたら、あなたならどうしますか？
送ってしまうかも…○ 迷うなあ…△ 送らない…×

「これは本当にあった話です。私の大切な友達のAちゃんが同級生Bにいじめられています！みんなこのメールを回してAちゃんを助けてあげて！」

()

「タイムラインに3回投稿すると、スタンプがもらえるよ！」

()

「このメールを友達に送らないとスマートフォンのデータが全て抜き取られるよ！」

()

このようなことって本当にあるのでしょうか？

○もしも自分のところへチェーンメールが送られてきたらどうしますか？学習したことをもとに考えてみましょう。

チェーンメールが届いたら…？（指導案）

携帯電話やスマートフォンはもちろん、家庭用ゲーム機にもメール機能が付いており、メール使用時期の低年齢化が進んでいます。またTwitterやLINE、FacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のメッセージ機能でのやり取りが普及するなかでのチェーンメールも多様化しています。メールは手軽に使える反面、電子メールが瞬時に多くの人に送れることや送ったメールを削除することができないことを理解して、正しく使うことが必要です。ここでは自分のプロフィールを書くチェーンメールを通して、個人情報勝手に流さないことや大量のメールが人に迷惑をかけることを理解し、チェーンメールが届いても自分の所で止める態度を育てることがねらいです。

題材名「チェーンメールが届いたら…？」

- ねらい
- ・チェーンメールの特徴を知り、大量のチェーンメールを一度に送ると、個人情報が一度に流れ多くの人に迷惑をかけることを理解する。
 - ・チェーンメールが届いても転送しないのが相手のことを考える行動であることを理解し、自分の所で止める態度を育てる。

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 メールの便利な点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・電話に出られなくても用件が伝えられる。 ・思いを気軽に書ける。 ・一度に多くの人に送れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールの便利な面があるがゆえに、チェーンメールに発展することにつなげる。
展開	2 仲の良い友人からチェーンメールが届いたらどうするか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達からなら転送してしまうかも知れない。 ・一部の内容を書いて送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なら転送するかどうか、理由もつけて考えを述べられるようにする。
	3 チェーンメールが送られた友人に怒られた理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・遅い時間に送られたから。 ・友達の画像を勝手に転送したから。 ・クラスや担任の悪口があったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールの内容に注目させて、個人情報や他人を中傷するような内容が相手に迷惑をかけることをおさえる。
	4 チェーンメールの特徴を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・数回転送されただけでこんなに広まってしまうんだ。 ・いたずらやデマが一気に広まってしまうね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が不特定多数の人に広まるとともに、一度出た情報が削除できないことをつかませる。 ・大量のメールを送ることは、本当に大切な情報が得られないことを理解させる。
	5 チェーンメールが届いた時にどうすればよかったか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の所で止める。 ・送ってきた友達に送らなかった理由を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの対処法を考え、実生活に生かせるようにする。
まとめ	6 実際にあったチェーンメールから、自分ならどうするかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も回してしまうかも？ ・よいことが書かれているけど、デマの場合もあるね。 ・その情報が本当に正しいか判断することが大切だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールの情報が正しいかを判断することの大切さを理解させ、安易に転送すると大きなトラブルにつながることをおさえる。


④ ある日とつ然・・・。

☆ある日とつ然，ノリコは仲良しの友達から仲間外しをされました。もし、あなたがノリコなら，どんな気持ちになると思いますか？想像してみましょう。


問い1 これはあるグループトークの様子です。

カズミ， マキ（２）


カズミが， マキを招待しました。
マキが参加しました




ノリコのあの態度，何なん？




このごろノリコって調子乗ってない？



そうそう！だいたいノリコの思うようには世の中回ってないっつーの！




ちょっと，ノリコに痛い目あわさんとな。




ノリコの奴，うちらが来んからきつとあわてるだろうな


グループトークも会っても無視な




あんな言い方ないと思う！




思う!!（怒）ハッキリ言わんでもいいよな！




ほんましけるわノリコの奴



明日1時に行くのやめよう！集合も別の場所にしよ



ノリコがこまるん，おもしろそ～！



OK!

☆このグループトークを見て，気になったこと・おかしいなと感じることを書きましょう。

☆問い2 次の文は、ノリコのうったえです。

私はノリコ、この週明けからカズミとマキから無視されています。無視されるようなひどいことを言った覚えはありません。グループトークで話したことでしょうか。

カズミから「明日の日曜日遊ぼう！」と誘われたのですが、家族との用事があったので「ムリ」と送りました。そこから、グループトークへメッセージを送っても、カズミやマキとは一切連らくが取れません。

次の日から、カズミやマキだけではなく周りの友達もだんだんと私と無視するようになりました。私が通る度に友達どうしてヒソヒソと何か言っていたり、ジロジロと見られたりするようになりました。私はとうとう一人ぼっちになってしまいました。

私のことを心配した別の友達がスマホを片手にやってきました。
「ノリコ、カズミからこんな届いたよ。」
その画面に映っていたのは・・・2人が私を無視しようと言ったグループトークの画面をスクリーンショットで撮影して送られたものでした。
(たくさんの人が私を無視したのは、この画像を見たからなんだ・・・)

☆「ムリ」と返事したノリコの心

☆周りの人に無視をされるようになったノリコの心

☆スクリーンショットを見た時のノリコの心

☆「教えて！解決策」ここまでのトラブルに発展する前にできたことは？

仲間外し（指導案）

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及をうけ、気軽にグループを作って会話（トーク）を行う「グループトーク」が、中高生達にとっては重要なコミュニケーションツールとなっています。気軽に話せる、連絡が瞬時に回せる、会話がグループ内で見られることから実際に会って会話をしているかのような状況となります。しかし、自分の意見とそぐわない意見が出たり前々から気に入らない相手が出たりした時に、簡単にグループから外す「グループ外し」が深刻な問題となっています。ネットいじめの厄介なところは、仲間から外されないように、悪口を書かれないように常に気を張り、ターゲットとなるといつ悪口を書かれるかと24時間怯えている状況があることです。ここでは、仲間外しを題材に、会って話せば解決できそうなささいな言葉であっても、その言葉のみが鵜呑みにされ、誤解を生みやすいことに気づき、お互い気持ちよく過ごせるためには、相手の気持ちに立った言葉でメールの返信をすること、顔を見合わせるコミュニケーションも大切であることを学びます。

題材名 「ある日突然…」

- ねらい
- ・顔を合わせない一方向のコミュニケーションが友人関係に誤解を生み、いじめに発展することをつかむ。
 - ・大事なことや気になることを伝える時は、メディアに頼るのではなく顔を合わせる双方向のコミュニケーションが大切であることを理解し、実践しようとする。

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 ある日突然仲良しの友達から仲間外しをされた時の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ？ ・何か悪いことしたかな？ ・こんな状況はいやだ。 	いじめを受けた側の気持ちをしっかり考えられるようにする。
展開	2 問い1を読み、気になる点を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の知らない所でうわさになってる。 ・なぜノリコが外されるんだろう。・かなり怒っているな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、物語の状況を十分おさえる。 ・カズミ達はなぜノリコを無視したかを想像させる。
	3 問い2を読んで物語の全体をつかみ、ノリコの心について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノリコも後悔しているよ。 ・カズミ達がそんなに怒ることじゃないよ。 ・スクリーンショットで周りの友達に無視するように言うのはおかしいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを伝えない言葉のやりとりでは、事態をこじらせることをつかませる。 ・便利な機能であっても、人を傷つけるために使うことはいけないことをおさえる。
	4 ノリコたちはどうすればよかったのかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・会って話したらすぐに仲直りできたんじゃないかな。 ・相手の気持ちに立った言葉づかいにすればよかったね。 ・メールだけは自分の気持ちも伝わらないし、相手はどう思っているか分からないね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ムリ」という言葉を、言葉だけ（言語的表現）のみの場合と言葉と表情（＋非言語的表現）を入れて話す方法もやってみせ、それぞれ受け取り方が変わること気づかせるようにする。
まとめ	5 これからの友達とのやり取りの仕方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な事は会って話す方がスッキリするね。 ・メッセージの文を送る時は、相手はどう受け取るかを考えて送りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめは、仲間外しは常に見張られている恐怖があることも伝え、相手のことを考えたコミュニケーションの取り方の大切さを理解できるようにする。

⑤ ネットのルールは…

これは、ノリコさんとカズミさんの家でのことです。

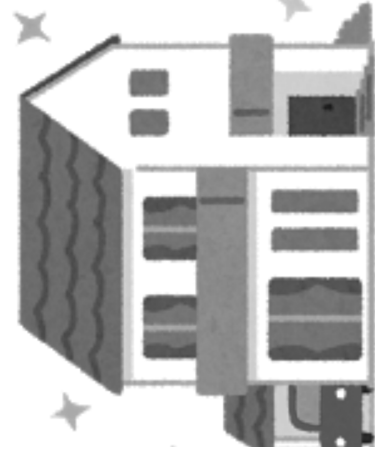
ノリコ

☆使うのは夜9時まで。
充電器はリビングへ置く。

☆リビングで使う。

☆家族との時間の時（食事中、
会話中）はさわらない。

☆メールのやり取りは、登録
している友達だけ



カズミ

☆使いたい放題

☆いつでも使ってもよい

☆どこでも使ってもよい
自分の部屋へ持ち込みOK

☆だれとでもやり取りOK



ノリコの家では、けい帯電話を買った時、使う時のルールを決めています。
一方、カズミの家では、ルールが決められていません。
あなたは、このちがいについてどう思っていますか。○をつけてみましょう。

あってもよい

あっては困る

いい面もあるけど気になる面もある

そう考えた理由

ネット（けい帯電話・ゲーム）を使う時のルールは

ある方がよい

ない方がよい

そう考えた理由

自分たちでつくる「ネット・ゲーム ○の約束」(指導案)

「ネットいじめ」「ネット依存」の問題は、大人が「ケータイを持たないようにしましょう」と言ったところで解決できることではありません。すでに小学生でケータイ・スマホを持ち始めている現代では、ケータイを持たせる前からよりよいネットとのつきあい方を考えていかなければなりません。各家庭においてもネットやゲームについての約束事を決めていると思いますが、ネットの状況は大人よりむしろ子どもが詳しい場合もあります。これからケータイ・スマホを持つ児童・生徒が増え、ますますネットにふれる環境になってきます。この段階だからこそ、子どもたちが自分たちでネットを使う際のルールを決めて守る学習に取り組み、主体的にかしこいネットの使い手になろうとする態度を育てます。

題材名「めざせ！かしこいネット・ゲームの使い手に

～自分たちでつくる『ネット・ゲーム ○の約束』～」(2時間)

ねらい ・ ネットにおけるルール作りの活動を通して、自分自身とネットとのかかわりを見直し、主体的にネットと正しく付き合おうとする態度を育てる。

※ルールづくりがスムーズに進むように、事前に「かしこいユーザーになるためのルール作り」を読ませて気づいたことを書かせておく。

※1/2の展開例です。2/2は出てきたルールを集約して学級のルールにします。

	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 二つの家でのネットのルールが違う場合で考えられるトラブルを考え、ルールの必要性について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノリコの家とマキの家でルールがちがうよ。 ・家での約束を守らなかった時に親に怒られそう。 ・友達の約束を守らないと、次の日から外されるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットのルールが異なる家庭の様子から予想されるトラブルを考え、ルールの必要性や意義を理解させる。 ・ルールのズレから起こる問題をキーワードにして焦点化しておく(時間、相手など)。
展開	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> めざせ！かしこいネット・ゲームの使い手に！ </div>		
	2 ネットやゲームを使う際のルールについて、自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・使う時間や場所を決めておこう。 ・ネットいじめをしない、あわないためのルールがあるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KJ法を用いて、個々の意見を集約しておく。
	3 グループの意見を出し合い、同じ意見どうしで仲間分けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんないろいろな意見が出ているね。 ・これならみんなが守れるルールを選んでいこう。 ・みんなが守れるようにするには、言葉も大切になるよね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で出されたキーワードをヒントに同じ意見どうしをまとめるよう助言する。 ・分かりやすい文言にするよう促す。
まとめ	4 学級全体でのルールづくりの意義を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんながルールを理解していると、気持ちよくネットが使えるね。 ・自分たちでルールを作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで出し合ったことをまとめ、学級のルール作りに仕上げようとする意欲を高められるようにする。

かしこいネットユーザーになるためのルール作り

ネットいじめやトラブルを防ぐために「子どもにケータイを持たせない」という意見が聞かれます。それも一案ですが、今後ますますインターネットが重要かつ身近なものとなり、我々はネットから完全に離れて生きていくことはほぼ不可能でしょう。そんな状況の中、ネットをかしこく使い、ネットトラブルから身を守る力を育むためにも、ネットを使用する際のルールを作り実施することが不可欠です。

そこで、以下に自治体や家庭でのルール作りの事例を挙げます。ぜひ、学校や家庭でのルール作りの参考としてみてください。

○家庭でのルール作り

以下に書かれているものは、アメリカで母親が息子にスマホを与える前に交わした約束の一部です。これは「スマホ18のルール」などと名付けられ、テレビ等で紹介されてからネット上でも話題となっていました。この「スマホ18のルール」では、所有権は親にあること、人を傷つけてはいけないこと、直接のコミュニケーションを大切にすること、などといった内容が含まれています。しかしそれだけではなく、親も一緒になって考えていこうとする姿勢と愛情も感じられるものです。ケータイを持たせる場合に大切なことは「買い与えて、ハイおしまい」ではなく、何に気をつけ、どのように使えば良いのかを子どもと一緒に考えていき、親子でかしこいネットユーザーを目指すことかもしれません。

- ・ これはお母さんのスマホです。お母さんが買って、あなたに貸してあげています。
- ・ パスワードは常にお母さんに報告しなさい。
- ・ スマホを学校に持って行ってはいけません。ネットでやり取りする相手とは直接会話を楽しみなさい。会話は生きる上で大切なスキルです。
- ・ 人に面と向かって言えないことを、このスマホを使って言わないでください。
- ・ あなたの周りで起きることを良く見てください。窓の外を見て鳥の声を聞いて、散歩に出かけ、知らない人とも話すようにしなさい。ネットに頼らないで探し求めなさい。

○地域や学校でのルール作り

これまでに、各地の教育委員会で「夜9時以降のスマホ使用の禁止」など、子どもたちのスマホ利用についてのルールを設けているところがあります。また、学校現場でも、生徒会やPTAの活動として、校区ぐるみでのルール普及に力を入れているところもあります。これは、子どもたちが「返信をしなければならない」という思いでスマホを手放せないこともあります。保護者には子どもから「みんなやっている」と言われて仕方なく、というものもあります。子どもや保護者を支えるためにも、学校や地域ぐるみでのルール作りは大切なことなのではないでしょうか。

ケータイ・ネットいじめ指導資料

(中学生から高校生用)

- ① 返事は早くしないとダメ？
- ② それ，ネット掲示板に書いていいの？
- ③ 写真の扱い方
- ④ ネット・スマホについて考える

鳴門教育大学 教職大学院阪根研究室

担当リーダー 木村理史

① 返事は早くしないとダメ？

1 「既読無視」や「既読スルー」という言葉がありますが…

友達からメールやLINEなどの返事がなかったら、あなたはどのように感じますか？

2 続いて、次のストーリーを読んでみましょう。

※グループチャット=ネット上で文字などでの会話を複数人ですること

ある日の夜7時頃、タカシはグループチャットで何人かとやりとりをしていた。そこでタカシは、ススムとの学校での会話を思い出し、グループチャットの中でススムも会話に参加していたので、ススムに向けてメッセージを送った。

「ススム、今日学校で言ってたマンガ、明日持ってこいよー」

でも、1時間以上経ってもススムから返事がこなかった。「既読」がついている様子から、ちゃんとススムはメッセージを読んでいるはずだ。タカシは我慢できず、もう一度ススムに向けてメッセージを送った。

「おい、ススム、無視するとかナメてんのか!？」

そうすると他のメンバーからも同じように、ススムに対しての暴言が続いて書かれた。

「ヘボいくせに調子乗んな」「アイツは無視しよーぜw」

そこからタカシたちは、おもしろがりながら、ススムの悪口や、ススムの画像を変形させて載せたりした。



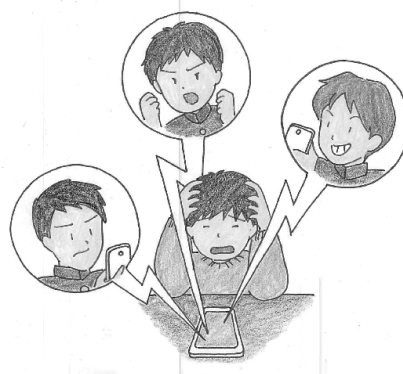
メッセージを読んだのに、返事をしないのはイイ？ダメ？ それはなぜ？

なぜススムへの悪口などがエスカレートしたのでしょうか？

あなたが「良くない!」と思う人はタカシ、ススム、その他のメンバーのうち、誰ですか？その理由も考えてみましょう。

3 次の話を読んで考えてみましょう。

ススムは家で、グループチャットで会話をしていた。でもその途中で親に呼ばれ、最後のメッセージをチラッと見てケータイの画面を閉じた。そこから親の手伝いをし、家族で過ごし、夜10時くらいに「そういえばケータイそのままだったな」と思い、画面を見てみた。そうすると、そこには自分に対する悪口がたくさん書き込まれていた。ススムは読んでみると状況が理解できた。自分にメッセージが送られていると気づかずに、そのままにしていたのだ。ススムは驚きながらもメッセージを送った。



「返事できなくてゴメン m(_ _)m」
でも、ススムへの悪口は止まらなかった。
「謝って許されるんかよー」「お前もうグループから外すなー」「どうしたら許してもらえるか自分で考えろ」
それだけでなく、ススムの写真を加工してバカにしたような画像を作って載せられた。
「この写真も学校の人に送っといたからなーwww」
ススムはどうすればいいのかわからなくなり、怖くなってきた。

どんなところにススムは「怖くなってきた」のでしょうか？なぜそう思いましたか？

このあと、あなたがススムならどんな行動をとりますか？

- 4 「既読」など、メッセージを読んでいるはずなのに、友達から返事がなかった場合の理由を考えてみましょう。そして、あなたはそれに対してどう行動したり考えたりすればよいのか考えてみよう。

もう2時間以上、返事がないぞ！

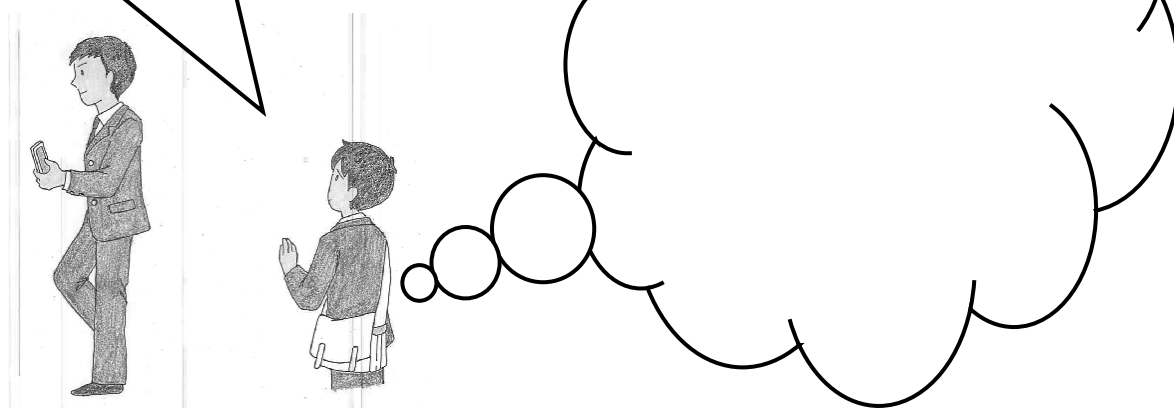


返事のない理由は？	あなたはどう行動する？考える？

- 4 あなたなら、返事をしてくれなかった友達に対して、次の日に直接どんな言葉をかけますか？それはどんな思いからですか？

どんな言葉をかける？

なぜ？どんな思い？



ネットいじめ予防 指導案① 【返事は早くしないとダメ？】

手紙、固定電話、携帯電話、メール、LINE、と主に使われるツールが変化している。そして、相手の反応をより早くもらいたい、もしくは早く返答しなければならない、という思いが強まっているのではないだろうか。実際、その返答の有無などがトラブルにつながる事例がある。そこで、相手の都合を考えたり、対面のコミュニケーションを大切にしたりすることで、お互いに理解し合うという姿勢を、本授業を通して考えさせたい。

ねらい：ネットでのやりとり（特にLINEの既読通知）で、返事の有無について考える
顔を合わせてのコミュニケーションを大切に作る姿勢を育てる

指導展開

展開	活動	留意点
導入	1 問「友達から返事がなかったら、あなたはどう感じますか？」	・スマホなどを持っていない生徒にも、手紙などで考えさせる。
展開	2 を読み、問について考える。 問「返事をしないのはイイ？ダメ？」 問「なぜ悪口などがエスカレートした？」 問「誰が一番おかしいと思う？なぜ？」 3 を読み、問について考える。 問「どんなところにススムは怖くなってきた？なぜそう思う？」 問「どんな行動をとりますか？」 4 問「返事がこない理由を予想して、自分なりの対処方法を考えよう。」 ※以下の例などを全員で考えても良い。 例 勉強しているから 自分が嫌われているから 返事するのを忘れているから	・力関係が存在する可能性に触れても良い。 ・人それぞれに都合があり、返事を急いで送る必要はないことに気づかせたい。 ・集団化や興奮で、顔を合わせない分、理性的な発言ができないことがあること。 ・子どもの正直な回答も認めながら、悪口などを送りつけられる苦しみを理解させたい。 ・文字だけ、画像のバラマキ、孤立感など無視して何もしないのは危険では？ ・証拠を残すこと、個別に電話や直接会って話をする、大人に相談するなど。実際にどう行動とるかを考えさせる。
まとめ	5 問「あなたなら、返事がなかった友達に対して、次の日どう声をかける？どんな思いで？」	・最終的には、返事の有無を気にしすぎず、またネットでのやりとりばかりでなく、直接会った時にどのように接するべきかを考えさせたい。

② それ、ネット掲示板に書いていいの？

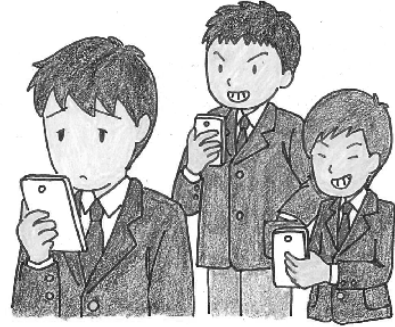
1 次の文章を読んで考えてみましょう。

ススムは学校から帰ったら、最近はお親に買ってもらったスマホを使う時間が増えてきている。ゲームをしたり動画を見たり、友達とメッセージをやりとりしながら会話をするのに時間を多く使っている。

あるとき友達から、あるサイトのアドレスを載せたメッセージが来た。

「お前のことが掲示板に書かれてるぞー！」

ススムは何のことかと思いながら、そのサイトを開いてみた。それは、自分の中学校について色々な人が書き込みをしている掲示板だった。それを読み進めていき、あるところでススムは止まってしまった。自分の悪口が書かれていたのだ。



232 :名無し中学生:2014/09/23 20:39

○年3組20番のアイツ、調子乗りすぎてキモイわ～

233 :名無し中学生:2014/09/23 20:53

あと、ス〇ムは部活の帰りによくコンビニで万引きしてるってウワサ…

234 :名無し中学生:2014/09/23 21:07

ウザがられてるん気づけよな！

このような書き込みがそのあとも続いていた。知っている人が読めば、簡単にススムのことだとわかる書き方だと思った。

ススムは書き込みを見て、どう感じたでしょうか？また、なぜそう思いましたか？

あなたがススムなら、このあと、どんな行動をとりますか？

2 続いて、先ほどのススムの話の裏では、このようなことがありました。

ある日の掃除の時間、アキラはトイレを一人で掃除していた。アキラは黙々と掃除していたが、イライラしていた。それは、同じ掃除班のもう一人の男子のせいだ。それはススムである。ススムは同じ班であるが、仕事に全く協力せず遊んだりしている。アキラは注意しようと思うのだが、ススムは体が大きく活発なので、なんとなく注意しにくいと感じている。けれど、ススムへの腹立たしさは募っていった。

あなたがアキラなら、どんな行動を取りますか？

そんなある日、アキラは家のパソコンでインターネットの掲示板を見ていた。そこで自分の学校について色々書かれているものを見つけた。そこには部活のことや先生のこと、不満などについて様々な人が書いていた。読んでいるうちに、自分も思っていることを書こうと思ってきた。そしてアキラは、ススムへちょっとした仕返しのため書き込みをした。しかし、ススムへのイラ立ちをさらに思い出し、書き込みがエスカレートしていった。



あなたが掲示板に書き込むときや、メールを誰かに送るとき、書いた内容を見直しますか？見直しませんか？それはなぜですか？

ネット掲示板に書き込まずに、アキラは自分の不満をどうすべきだったでしょう？ススムの立場に立って考えてみましょう。

3 次の日の話を読んで考えてみましょう。

悪口を書き込まれたススムはひどく傷つき、誰に見られているかと怖くなり、翌日学校に行くことができなかった。そんなススムの様子を見た親はススムに問いただした。ススムは掲示板に悪口を書き込まれたことを親に話すのは嫌だったが、しぶしぶ話した。そうすると親は激怒した。



一方、アキラは学校でクラスメートが話している内容を聞き、驚いた。ススムがネットに悪口を書かれ、学校に来ることができないということだった。それに、保護者が学校や警察に相談し始めているということを知った。アキラは「うわ、やばい…。どうしよう…。」と思った。

あなたが加害者であるアキラなら、この後どうしますか？

この話のような加害者（アキラ）にならないために、どんな考え方や行動が大切でしょうか？

4 その後の話です。

ススムと親は警察のサイバーポリスの相談窓口へ行った。そして、掲示板の管理者に削除依頼するとともに、名誉毀損での被害について相談した。掲示板への書き込みは「匿名」と思われているが、誰が書き込んだかを特定することができる法律があることも知った。

一方、そんなススムのことを聞き、アキラは迷った結果、担任の先生に自分が書き込んだことを話した。先生は「自分のことばかり考えるんじゃなくて、傷ついたススムのことを一番に考えることが大切だ。その書き込みを削除したとしても、ススムにとっては無かったことにはできないんだよ。今、君にできることは何かな？」と話してくれた。

その日の放課後、アキラは自分の親に全てを話した。親は泣いて怒ったが、アキラは親と一緒に、ススムのところへ謝罪しに行った。アキラは思った。「ススムと、ススムの親は許してくれるのだろうか…。」

アキラは隠すのではなく、正直に名乗り出て謝罪しようと思いました。隠すのと、素直に謝るのでは、何がどう変わってくるのか考えてみましょう？

【隠した場合】

【素直に謝った場合】

ネット掲示板など、人が見るものには書いてはいけないことは、どんなことでしょうか？

ネットいじめ予防 指導案② 【それ、ネット掲示板に書いていいの？】

ネットいじめに用いられるツールとしてネット掲示板が挙げられる。削除依頼等が可能だが、匿名性の高さ、不特定多数の閲覧者、永久性など、ネット特有の精神的な被害を与えるものだ。人権意識や対人スキル、被害者となった場合の対処方法など、トラブルの予防から被害拡大の防止までについて考える機会を、本授業を通して提供したい。

ねらい：ネットの匿名性や永久性を知り、安易に書き込むことが人を傷つけることを知る
現実の場面での人としての行動について考える

指導展開

展開	活動	留意点
導 入	1 問「ネット掲示板を読んだり書き込んだりしたことありますか？」	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット掲示板について理解する。 ・ その情報の真偽について触れても良い。
展 開	1を読む。 問「ススムは書き込みを見てどう感じた？それはなぜ？」 問「あなたなら、どんな行動をとる？」 2の話の途中まで読む。 問「あなたがアキラならどうする？」 2の話の続きを読む。 問「あなたは書いた内容を送ったりする前に、読み直したりする？」 問「アキラは不満をどうすべきだった？」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もし自分が…」という視点で考えさせる。 ・ 匿名性、永久性、不特定の閲覧者など ・ 無視しても被害が広がることもあるので、大人に相談させるなど、一人で抱え込まないようにさせたい。 ・ 子どもの正直な回答で良いだろう。 ・ 一時の感情に流されたり、文字による誤解を与えたりしないように気をつけさせたい。 ・ 先生や友達に相談する、直接ススムと冷静に話す、など「直接」「冷静」を意識させる。
ま と め	※時間や状況に応じてどちらかでも良い。 3を読む。 問「あなたが加害者ならどうする？」 問「加害者にならないためにどんな考え方や行動が大切か？」 4を読む。 問「隠すのと、素直に謝った場合では、何がどう変わるだろう？」 問「掲示板など人が見るものに書いてはいけないことはどんなこと？」	<ul style="list-style-type: none"> 3、4ともに、加害者の心の動きに注目させる。 ・ 具体的な行動。本心でも良いだろう。 ・ 書き込むまでの、自身への対処について考えさせたい。 ・ 謝るという行動や言葉だけでなく、心から申し訳ないと思い、それを行動に移す大切さを感じさせたい。 ・ 個人情報や誹謗中傷、「死ぬ」など普段使いそうな言葉など、誰かを傷つけるリスクのあるものについて振り返らせる。また、誰でも被害者・加害者になりうることを押さえたい。

③ 写真の扱い方

- 1 あなたはケータイのカメラでどんなものを撮りますか？また、その写真をどのようなことに使いますか？（例えば、ブログに載せる、など）
持っていない人は、どんなことをしてみたいですか？

- 2 ケータイなどで撮った写真は、データとして簡単に人に送ったり、ネットに載せたりすることができます。そこで、ケータイで撮った写真は使い方によって、「良い面・便利な面」と「悪い面・危険な面」があります。それはどんなことか、考えてみましょう。

良い面・便利な面

悪い面・危険な面

- 3 ネットなどに関連して次の言葉を、みなさんも聞いたことがあるでしょう。どんな意味かを理解していますか？

- ・ 個人情報
- ・ 炎上
- ・ 拡散
- ・ コピペ
- ・ 特定
- ・ 叩く

4 ケース① ～消しても、ネット上に残る～

僕はショッピングモールに友達と来た。その買い物の途中に、みんなでベンチで休憩していた。そのとき、近くを一人のおばあさんが通った。そのおばあさんは、腰を曲げながら両手にいっぱい荷物を持っていて、なぜかその光景がおもしろく感じ、そのおばあさんを指差して笑った。そこで僕はケータイを取り出し、そのおばあさんをコソコソ写真に撮った。そして、その写真をツイッターにコメントと一緒に載せた。



ここまでの「僕」の行動のどこが間違っているのでしょうか？それはなぜですか？

しばらくするとツイッターに知らない人からもコメントがくるようになった。

「勝手に人のこと隠し撮りするなよ！」「お前、人として終わってるな」

「お前が同じように写真に撮られてバカにされたらどう思う！？」

最初、僕はそんなつもりはないと思っていた。でも、文句を言われるのも嫌だったので、自分の書き込みを削除した。ところが、僕が書いた内容がネット掲示板に転載され、色んな人から非難するようなコメントが書かれていた。さらに、知らない間に僕の名前や写真、学校名などが書き込まれたりしていた。僕のことだけでも辛いですが、家族や友達にも迷惑がかかっているんじゃないかと不安で仕方なかった。これから永久に書き込みが残るのも…



どうやって「僕」の個人情報を知られたのでしょうか？予想も含めて考えてみましょう。

5 ケース② ～プライベートな写真の拡散～

私には付き合っている彼氏がいた。家に帰ってからいつも LINE で会話をしていた。そこでは私の持っているものの写真、自分で撮った写真を送ることもあった。ある日の夜、彼氏から「服脱いで写真撮って送って」と言われた。私は「恥ずかしいからヤダ」と返し、そんなやりとりが少し続いた。彼氏は「見せてくれたらもっと好きになる」「誰にも見せないから」と言ってくるので、私も「少しくらいならいいか」と思い、顔は手で隠して下着姿の写真を自分で撮って送りました。彼氏が喜んでくれたり、私のことをほめてくれたりするので嬉しかったし、おもしろかった。その後も、同じようなやりとりで写真を送ることがあった。私はそれほど深刻に考えることはなかった。

あなたが好きな人などからお願いされたとき、どうやって断りますか？

数ヵ月後、その彼氏とはケンカをして別れた。ところが、私は友達から「元彼が、アンタの写真を男友達に見せてるらしい」と聞かされた。私は写真を見られるという恥ずかしさと、なぜそんなことするのかという怒りが込み上げてきた。私は彼に「なんで写真見せるん!?全部消して!」と言ったが、彼には「オレの写真やからいいやろ。ネットでバラまいたろか。」と言われた。

写真は顔を手で隠していたが、知っている人が見ればすぐにわかってしまうだろう。私はそれ以来、写真を人に見られることや、家族に知られてしまうこと、もしネットに載せられたらと思うと怖くて仕方なかった。

このような事態になってしまったら、どうすれば良いのでしょうか？

※画像や動画をネットに載せられたり、それらを使って脅迫されたりする被害が増えています。恋人だけでなく、出会い系や SNS など知り合った人からというものもあります。また、ネット上では簡単に転載されて広がってしまい、永久に残ってしまいます。

6 その写真の使い方、良い？ダメ？考えてみよう。

ことから	良い	ダメ	なぜ？
①友達をこっそり撮影して、その写真を他の人に送った。			
②友達を撮影していいか聞いたら良いと言ったので、撮影してネットに載せた。			
③友達のブログに載っていた友達の顔写真をコピーして別のサイトに載せた。			
④ネットで知り合った人に、自分の写真を撮って送ってほしいと言われて送った。			
⑤自分が小さい弟と一緒に撮った写真をみんなに見せたくてネットに載せた。			
⑥本屋で立ち読みし、買わずに本の一部を写真に撮った。			

7 最後に、写真のデータで何かをするとき、自分が絶対にしない！気をつける！ということを考えましょう。

自分は、絶対にしない！気をつける！

ネットいじめ予防 指導案③ 【写真の扱い方】

カメラ機能付きケータイやスマホが普及し、写真データの SNS への掲載や受け渡しが行われている。その利便性や娯楽性の反面、人権侵害や個人情報などの問題、炎上や拡散といった被害の拡大、さらには脅迫や性的被害といった問題につながる実態がある。そのような現状を踏まえ、写真データの利用や発信の方法について考える機会を、本授業を通して提供したい。また、「動画」などについても同様であろう。

ねらい：画像などのデータが、予期せずネットで広がってしまう恐ろしさを知る

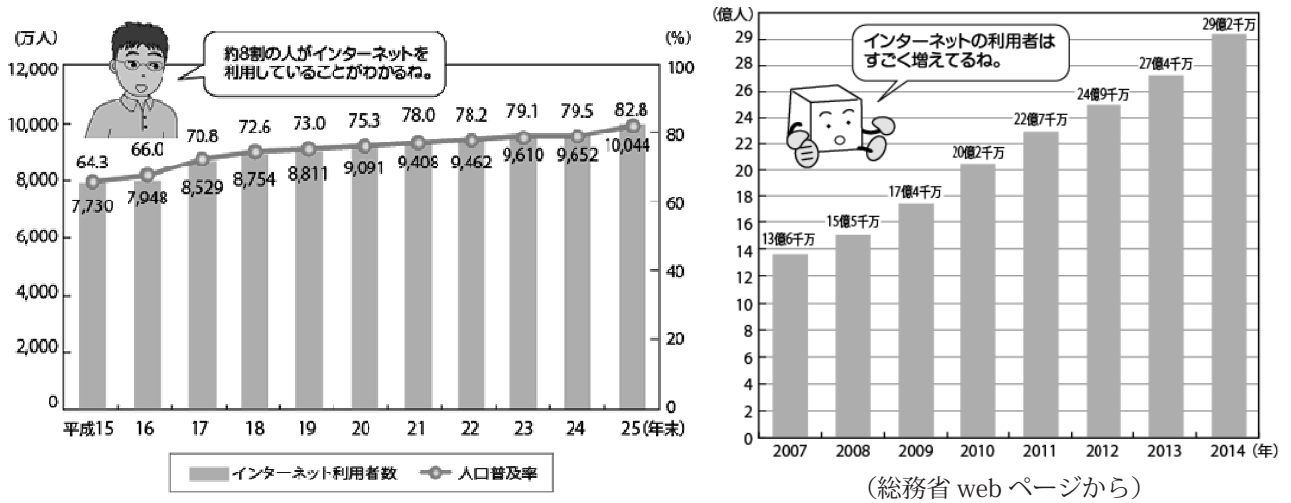
画像などのデータをどのように扱うべきか考える

指導展開

展開	活動	留意点
導入	1 問「ケータイ写真の使い方を思い出してみましょう」	・ケータイで気軽に撮影できる楽しさや便利さを思い出したい
展開	2 問「ケータイ写真の良い面、悪い面を考えてみよう」 3 問「これらの言葉を知っていますか？」 4を読む 問「どのように、なぜ間違っているのでしょうか？」 問「どうやって個人情報が知られたのでしょうか？」 <u>※5について、性的な問題もあるので、女子のみのときが良い。</u> 問「あなたならどうやって断る？」 問「どうすれば良いでしょうか？」	・利便性や娯楽性的一方、流出や悪用や肖像権の問題に触れたい。 ・その後の話にもつながるので、簡単に説明を加えたい。 ・人権意識、肖像権について触れたい。 ・記事の内容や写真の様子その他、写真などのデータ内容の位置情報などが考えられる。 ・近年リベンジポルノなどの被害があり、その精神的苦痛は大きい。 ・相手との関係の中で、どう答えれば良いかを考えたい。 ・早急に親や先生に相談し、被害を最小限で留めさせたい。また、自ら進んで安易にネットに投稿などしないようにさせたい。
まとめ	6 問「それぞれの場面について考えてみましょう」 7 問「自分への約束として、しないことや大切なことを考えてみよう」	・具体的な場面での、自分の行動と考え方について、班員などと交流して考えたい。 ・自分への決意や約束として、1つでも2つでも考えさせたい。

④ スマホについて考えよう

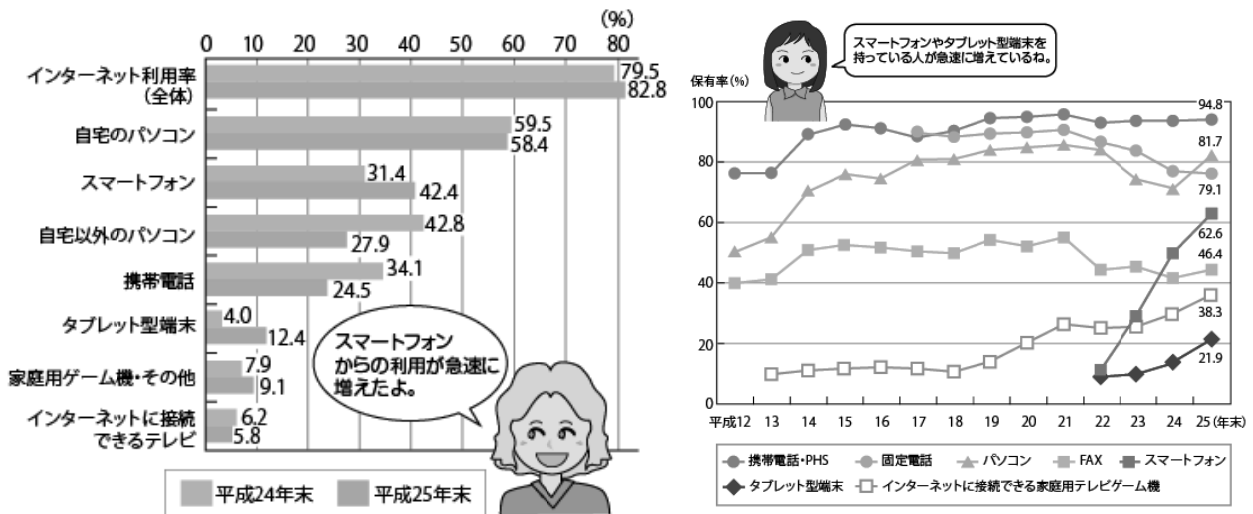
1 これらは日本と世界のインターネット利用者数の推移です。



① ネット利用者が増えていますが、ネットを利用して何をしていますのでしょうか？

② あなたや家族は、ネットを何のために使っていますか？

2 次に、何を使ってネットに接続しているのか見てみましょう。



スマホによって、ネットを利用しやすい状況になってきていますね

- 3 スマホを使う人が増えています。そこで、スマホの「良いところ・悪いところ・どちらにもなる」ということを挙げてみよう。

☆良いところ

☆悪いところ

☆どちらにもなるところ

- 4 もしスマホやケータイがなかったら、こんなときどうするか考えてみよう。

友達との待ち合わせまであと少ししかないけど、急に行けなくなった！どうしよう？

今日学校で、友達に嫌なことを言ってしまった。もう夜8時だけれど、どうしよう？

5 下にそれぞれのトラブルや対処について書かれています。何がダメだったのか？あなたならどう対処したかを考えてみましょう。

ことから	何がダメだった？あなたならどうした？
<p>①誰かが自分の名前を使って、「私は恋人を探しているのでメールください」とチェーンメールを回していた。私は怖かったが、無視しておくことにした。でも、変な人からのメッセージが増える一方だ。</p>	
<p>②友達から「もうアンタとはしゃべらんから、明日から話しかけんといて」とメッセージがきた。私は腹が立って、「キモいねん、二度と話しかけんからな」と返事した。すると次の日の学校で、友達が「なんであんなメッセージ送ってきたん？」と怒ってきた。</p>	
<p>③冗談のつもりで友達の A の写真を裸のように加工して、別の友達の B に送った。すると次の日、A が親と一緒にすごく怒って家に来た。でも謝るのが嫌だったので、自分ではないとウソをついた。</p>	

6 最後に、スマホを使うときの「自分のルール」を作ってみよう！
※「～～しない！」や「～～する！」など

自分ルール

ネットいじめ予防④ 指導案 【ネット・スマホについて考えよう】

「デジタルネイティブ」と呼ばれる子どもたちの世代では、ネットが使える環境が当たり前であり、ネットを利用することに対しても大きな疑問を抱かないのではないだろうか。そして、今後ネットなしでは成立しない社会の中で、「子どものためにネット・スマホ排除」とするのは難しいだろう。しかし、だからこそ、ネットと上手く付き合うスキルや、ネットの向こうにいる人に対する人権意識やモラルについて考える機会を、本授業を通して提供したい。

ねらい：ネットやケータイのメリット・デメリットを考え、互いの意見を交流する。

ネットやケータイのリスクを考え、上手く使おうとする姿勢を育てる。

指導展開

展開	活動	留意点
導入	1 グラフを見ながら、ネットが何に使われているか考える。 2 グラフを見て、スマホの利用が増加しているのを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の向上などについて触れても良い。 ・ネット利用が身近になっていることを知る。
展開	3 問「スマホの良いところ、悪いところ、どちらにもなることを考えてみよう。」 4 問「ケータイなどがなかったら、こんなときどうしますか？」 5 問「それぞれの話で、あなたが問題だと思うところや、あなたならどうしたかを考えてみましょう。」 ※②では「なりすまし」の可能性や「顔が見えない」ところにも。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題から、ニュースなどで取り上げられることなど、助言しても良い。 ・ケータイの便利さを改めて感じるとともに、ケータイがない時代はどうしていたのか考える。また、顔を合わせた会話の重要性にも触れたい。 ・具体的な場面で自分がどうすべきなのかを考える。顔を合わせたの対応についても考えさせたい。
まとめ	6 問「最後に、スマホを上手に使える人になるために、自分への約束やルールを考えよう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやケータイなどと切り離れた生活は不可能であるという観点で、上手く利用できるための具体的なことを考えさせる。

ケータイ・スマホの指導資料

(共通指導用)

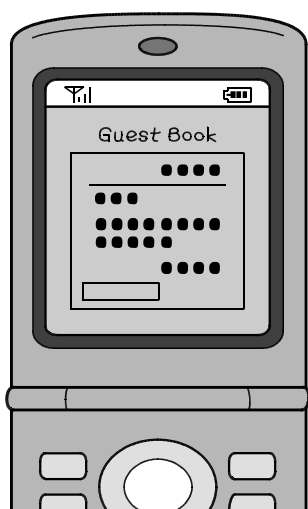
- ① 既読無視から仲間はずれ
- ② 書きことばと話しことば
- ③ 不適切な投稿
- ④ いじめ問題
- ⑤ 文部科学省の資料を活用する

徳島市教育委員会青少年育成補導センター作成

① ケータイ・スマホの向こう側 <既読無視等が原因で仲間はずれに>

AさんとBさんは同じ中学校に通う1年生です。小学校時代からの親友で、今日も休み時間はずっと一緒に話をしていました。

Aさんは、いつものように「ただいま・・・」と、家に帰りました。ホッとしたのもつかの間、無料通話アプリの着信音が静かな部屋に鳴り響きます。「今日は何の話題かな?」と、すぐに見ると、そこには、次のような内容が書かれていました。



○○○ **A**ってほんまにうざい!
むかつく

××× **スルーが多いし**

△△△ **そうそう、既読もおそい**

□□□ **やめる?**

○○○ **わかった。 Bは?**

B うん・・・

××× **じゃあ かいさ～ん**



Aさんは10月ごろから、少し返信が遅れるようになっていました。それまでは、夕食や宿題をする時には必ず机の上に置いてすぐに返信をしていたのですが・・・。

親には怒られるし、寝る時間はいつも12時を過ぎていました。気になってお風呂もゆっくり入れないなど、ずっと悩んでいたことです。

「ケータイ・スマホの向こう側」 (指導案)

1 題材名 「ケータイ・スマホの向こう側」

2 ねらい

携帯電話・スマートフォンを利用した SNS の書き込み等に対する返信の遅れや返信できない状況があることを理解させながら， SNS を使う時間についても考えさせる。

3 学習展開

学習活動	指導上の留意点
1 携帯電話やスマートフォンの便利な点，気をつけなくてはならない点を話し合う。	1 情報化社会の，いわゆる光と影について意見を出し合わせる。
2 A のとった行動について考える。	2 A の心の葛藤について考えさせ，ともすれば○×△□も「すぐに返信しなければ仲間はずれにされる」等の不安はなかったかを考えさせる。
3 B のとった行動について考える。	3 B はどうすればよいのかを考えさせる。
4 みんなが便利に SNS を使うためにはどうすればよいかを考える。	4 携帯電話やスマホの向こう側には相手がいること，相手の気持ち，人権等を考えさせる。

4 留意点

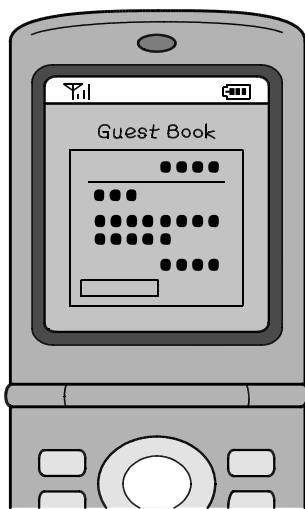
- ①人権教育の視点（メール等を受け取った人の気持ちなど）から指導をする。
- ②携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒について配慮する。
- ③情報機器に使われるのではなく，家庭や友だち同士でルールを決めることなど，上手に使っていく方法を考えさせる。
- ④一人で悩まず，教員や保護者に相談することが大切であることを知らせる。
- ⑤健康面，基本的な生活習慣に配慮する。

② **ケータイ・スマホの向こう側** <話しことばと書きことばの違い>

Aさんは同じ中学校の友だち5人で無料通信アプリのラインをしています。

今日の昼休み、いつもの5人で話をしている、先週の日曜日に行った買い物のことが話題になったとき、5時間目の授業が始まるチャイムが鳴り、話は中断しました。

家に帰り夕食を終えて間もなく、スマホの着信音に気づきました。今日の昼休みの話の続きです。内容は着ていった服装のことでした。



C Dが着ていた服、どこで買ったの？

D ○○○店で

A Dが着ていた服かわいくなかった

B なんで…

E よかったでえ

B Aも買ってもらったら

C うざい～、なんでほんなこと言うん

D 直接言ってよ

A えっ！！



Aさんはなぜこんなことを書かれるのかわかりませんでした。しかし、次々と書き込みをされ、そのことばに驚きました。

「ケータイ・スマホの向こう側」 (指導案)

- 1 題材名 「ケータイ・スマホの向こう側」 <話しことばと書きことばの違い>
- 2 ねらい

携帯電話・スマートフォンを利用したSNSの書き込みには短文が用いられる。しかし、短文では意志が十分に伝わらないことがあり、誤解からトラブルやいじめになりかねない。「話しことばと書きことば」には違いがあることを理解させながら、SNSを使う話題やその内容についても考えさせたい。

- 3 学習展開

学習活動	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 携帯電話やスマートフォンの便利な点、気をつけなくてはならない点を話し合う。 2 Aさんが書き込んだ「Dが着ていた服かわいくなかった」は、読む側にとってどのような意味にとることができるか、また「C うざい～、なんでほんなこと言うん」は誰に対して言ったことばなのか話し合う。 3 「書きことばと話しことば」の違いにより、よく似たことや誤解をしたことがないか意見を出し合う。 4 みんなが便利にSNSを使うためにはどうすればよいか考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報化社会のもつ、いわゆる光と影について意見を出し合わせる。 2 「書きことばと話しことば」の違いや、「主語がはっきりしない短文」であることが誤解を生じやすいことに気づかせ、なぜこのようなことが起きるのか考えさせる。 3 一方通行の書きことばには、直接話をする時に比べ、受け取る人の気持ちや考えの違いにより、多様に受け取ることができることを理解させる。 4 携帯電話やスマホの向こう側には相手がいること、相手の気持ち、人権等を考えさせる。

- 4 留意点

- ①人権教育の視点（メール等を受け取った人の気持ちなど）から指導をする。
- ②携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒について配慮する。
- ③情報機器に使われるのではなく、家庭や友だち同士でルールを決めることなど、上手に使っていく方法を考えさせる。
- ④一人で悩まず、教員や保護者に相談することが大切であることを知らせる。
- ⑤情報機器の特性として、文字や画像は残り続ける・広がることを指導する。

③ ケータイ・スマホの向こう側 <不適切・勝手な投稿写真>

同じ部活動をしているAさんとBさんは仲の良い友人で、この日も一緒に帰っていた。AさんとBさんの会話は次のような内容でした。

A：これちょっと見て。昨日、スマホでこんな写真を撮った。

(ある店舗の冷蔵庫に体を半分入れて撮った写真)

昨日暑かったけんな、涼んだ。

B：これ、ちょっとまずいんとちがうん。おこられなかった？

A：見つからなかったけんな。ネットに匿名でアップした。Bと一緒に写った写真も投稿しといたけん。ええやろ？

B

しばらく悩んだBは、ネットに自分の写真が勝手に投稿されたことを先生に相談しました。この後、Aは親や学校の先生から怒られ、その店舗に謝りに行きました。当然、店舗の人からも厳しく叱られました。

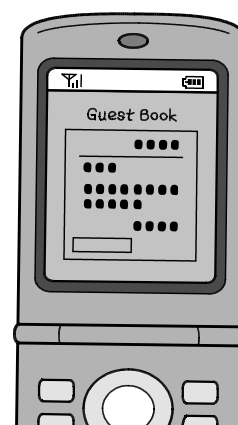
しかし、それだけではすまされませんでした。

Aがアップした写真から、Aの名前や住所、学校、学年がネット上に流れてしまいました。

BやBの保護者からも完全に削除して欲しいと言われました。

A：ちょっと遊びでしただけなのに

何でこんなことになるのかな？



「ケータイ・スマホの向こう側」 (指導案)

1 題材名 「ケータイ・スマホの向こう側」 <不適切・勝手な投稿写真>

2 ねらい

携帯電話・スマートフォンを利用したSNSの不適切な画像の投稿や相手の了解を得ないで画像を投稿することが、どうなるのか実際にあった例を挙げ理解させるとともに、投稿するときの注意しなければならないことについても考えさせる。

3 学習展開

学習活動	指導上の留意点
1 携帯電話やスマートフォンの便利な点，気をつけなくてはならない点を話し合う。	1 情報化社会のもつ，いわゆる光と影について意見を出し合わせる。
2 Aの行った行動について考える。	2 Aが行った行動について，冗談ですまされないこと，店員のもつ印象等について考えさせる。
3 投稿したことについて考える。	3 投稿する危険性と無断で投稿されたBについて考えさせる。
4 みんなが便利にSNSを使うためにはどうすればよいか考える。	4 携帯電話やスマホの向こう側には，相手がいることを考えさせ，相手の気持ちや相手のこと，相手の人権等を考えさせる。

4 留意点

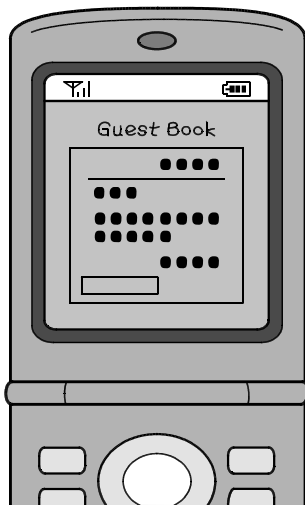
- ①人権教育の視点（メール等を受け取った人の気持ちなど）から指導をする。
- ②携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒について配慮する。
- ③情報機器に使われるのではなく，家庭や友だち同士でルールを決めることなど，上手に使っていく方法を考えさせる。
- ④一人で悩まず，教員や保護者に相談することが大切であることを知らせる。
- ⑤法の遵守を指導する。

④ ケータイ・スマホの向こう側 <いじめ問題>

私とAは同じ中学校に通っています。同じクラス、同じ部活動ということもあり、話をする機会も多くなりました。話をする内容もクラスのことや部活動のこと、芸能人のこと・・・など、共通した話題で盛り上がります。

ある日、部活動のちょっとしたことで意見が合わず、言い合いになりました。

私がラインに書き込んだことから、取り返しのつかないことになってしまいました。



私 **Aとは意見が合わない。
ときどき、むかつく…(笑)**

××× **私もそう**

△△△ **うざい**

□□□ **無視 無視！！**

私 **O~K~ (^|~)**

A **何よ**

(全員 応答無し・・・)



翌日、Aは学校に来ましたが寂しそうでした。学校も時々休むようになり、来ても保健室や相談室で過ごすようになりました。初めは気にしていませんでしたが、だんだんと気にかかるようになり、「もっと話をしたらよかった」「ラインに書き込みをせんかったらよかった」と考えるようになりました。

「ケータイ・スマホの向こう側」(指導案)

1 題材名 「ケータイ・スマホの向こう側」<いじめ問題>

2 ねらい

携帯電話・スマートフォンを利用したSNSの書き込みがどれだけ相手を傷つけるか、また、書き込みをした本人も取り返しのつかないことになることもあることを考えさせる。

3 学習展開

学習活動	指導上の留意点
1 携帯電話やスマートフォンの便利な点、気をつけなくてはならない点を話し合う。	1 情報化社会がもつ、いわゆる光と影について意見を出し合わせる。
2 Aの気持ちについて考える。	2 Aの心の葛藤について考えさせる。
3 私の行動について考える。	3 私の心の葛藤について考えさせる。
4 他の人たちについて考える。	4 ×△□について考えさせる。(「同調しなければならぬ流れ」や「仲間はずれにされるかもしれない」怖さがあることも理解させたい。)
5 みんなが便利にSNSを使うためにはどうすればよいか考える。	5 携帯電話やスマホの向こう側には、相手がいることを考えさせ、相手の気持ちや相手のこと、相手の人権等を考えさせる。

4 留意点

- ①人権教育の視点(メール等を受け取った人の気持ちなど)から指導をする。
- ②悪口を「書く」ことがどれだけ人を傷つけることか、「悪口や陰口を言う」と同じであり、書き込みをしたことは残り続けることも理解させたい。
- ③一人で悩まず、教員や保護者に相談することが大切であることを知らせる。
- ④携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒について配慮する。

参考資料

- ① ネットモラル用語集
- ② 話し合いツール（KJ法）
- ③ 近年の論考

「ネットいじめ研究と対策の
国際的動向と展望」

〈教育と社会〉研究 第23号から抜粋

一橋大学大学院社会学研究科



「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」（指導案）

※文部科学省のホームページから「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」で検索をすると資料があります。

- 1 題材名 ソーシャルゲームなどの中毒性をもたらす悪影響
- 2 指導のねらい
オンラインゲームやSNSの特性について考えさせ、日常生活への影響がないように、ゲームやSNSと向き合うことができる判断力を育成する。
- 3 学習指導要領との関連性
(小学校)
道徳〔第5学年及び第6学年〕
・主として自分に関すること。
(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
特別活動〔学級活動〕
(2) イ基本的な生活習慣の形成
カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成
(中学校)
各教科・技術・家庭〔技術分野〕
2. 内容 D 情報に関する技術
特別活動〔学級活動〕
(2) キ心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- 4 学習展開（特別活動）

展開	学習内容 <児童生徒の反応>	留意点	参考資料
導入	1. 学級で実施したスマホに関するアンケート結果を確認する。 ・休みの日に使っている人が多い。 ・家庭で使う時間を決めている。 ・ネット依存と思うことがある。	家庭環境などプライバシーに関わることなど十分配慮する。	※アンケート ※ちょっと待って！ケータイ&スマホ 2014年版
展開	2. ゲームやスマホに夢中になってやめられなくなった経験があるか質問する。 3. ゲームにはまる仕組みを具体的に示す。 4. ネット依存にどうしてなるかを考える。	具体的なこと 課金や競争などのめり込む仕組みがある。	
まとめ	5. ゲームやスマホを長時間すると、どのようなことが起こるかを考える。 6. ゲームやスマホとどのように向き合っていけばよいか、考えワークシートに書く。 7. 発表とまとめ	睡眠不足や集中力の低下を取り上げる。 ルールを守ってすることが大切である。	

名 前

- 1 ゲームやスマホに夢中になってやめられなくなった経験はありますか？

- 2 ゲームやスマホを長時間するとどのようなことが起こると思いますか？
自分が思うことを書き出してみましょう。

- 3 ゲームやスマホとどのように付き合っていけばよいか考えてみましょう。

- 4 今日の授業の感想や、今日の授業で生活に活かしたいことを書き出しましょう。

「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」（指導案）

※文部科学省のホームページから「ちょっと待って！ケータイ&スマホ」で検索をすると資料があります。

- 1 題材名 書き込みやメールでの誹謗中傷やいじめ
- 2 指導のねらい
なりすましやネットに文章や写真を掲載することが与える影響について考え、適切な利用の仕方を考えることができる。
- 3 学習指導要領との関連性
(小学校)
道徳〔第5学年及び第6学年〕
・主として自分に関すること。
・主として集団や社会とのかかわりに関すること。
特別活動〔学級活動〕
(2) イ基本的な生活習慣の形成
カ心身ともに健康で安全な生活態度の形成
各教科・社会（第5学年）
2(4) イ情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり
総合的な学習の時間
2.(8) 情報が日常生活や社会に与える影響
- 4 学習展開（特別活動）

展開	学習内容 <児童生徒の反応>	留意点	参考資料
導入	1. パソコンやスマートフォン、ゲーム機などで友達や家族とやりとりをしたことがありますか。 ・メールで帰る時間。 ・LINEで集合場所。 ・「どうぶつの森」等、ゲームの話。	体験談などあれば発言してもらおう。 具体的なこと	※ちょっと待って！ケータイ&スマホ 2014年版
展開	2. なりすましについて知っていることを共有する。 ・オレオレ詐欺 ・架空請求 ・電話番号聞き出し ・LINEやツイッターが本人でなかった	事例の紹介	
	3. ネットトラブルに巻き込まれた事例について紹介する。	事例の紹介	
まとめ	4. ネットに写真や文章を掲載することについて、どのようなことに気をつけないかを考える。	伝える側と受け取る側では文面から受け取るイメージが違うことに気付かせる。	
	5. 今後どのようにネットと向き合っていけばよいか、考えワークシートに書く。		
	6. 発表とまとめ		

名 前

1 ネットトラブルにあった経験はありますか？

2 なりすましに気をつけるためにはどうしたらいいと思いますか。

3 ネットに写真や文書を掲載するときの注意点を書き出してみましよう。

4 今日の授業の感想や、今日の授業で生活に活かしたいことを書き出しましよう。

ネットモラル用語集

ネットを取り巻く言葉は複雑で、数も非常に多いです。今でも新しい言葉がどんどん世間に知られるようになりました。ここでは、教材を取り扱う小中学生が会う可能性のある言葉を集めました。先生方の研修はもちろん、保護者会資料としても使用できます。

用語	意味
ホームページ	ネット上で誰でもアクセスできる情報のまとめ。ウェブページともいう。
チャット	英語で“雑談”の意味。インターネットのチャットも雑談同様に会話を楽しむツール。掲示板との違いは返事の手続きで、リアルタイムに単文の返事が書き込まれる。
スクリーンショット (スクショ)	パソコンやスマートフォンなどの機器の画面領域を画像として保存すること、もしくはその画像のことである。 スクリーンショットは今自分が見ている画面を他のユーザーに知らせる場合や、何かの操作方法などを解説する時などに用いられることが多い。
SNS	「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」の略。ネット上で自分の趣味、友人、社会生活などについて公開しあいながら、交友関係を構築するウェブサービスのこと。誰でも閲覧や書き込みができるブログや掲示板と異なり、会員制やメンバーの承認制を取り入れ、ある程度安心感をもって参加できる。
Twitter (ツイッター)	140文字以内の投稿を皆で共有するサービスのひとつ。SNSの一つ。 ツイッターは日本語にすると「つぶやき」という意味で、ただ自分が思いついたことを発信する(つぶやく)。そのつぶやき(ツイート)は特定の誰かに対して発信されるのではなく、不特定多数に向けられる。 自分の発信を読み続けてくれ、ときにはコメントをしてくれる人(フォロワー)を持つことができ、コミュニケーションを楽しむこともできる。
Facebook (フェイスブック)	ユーザーが10億人以上とされる世界最大のSNS。本名の登録が義務づけられており、匿名性を排除しているため、インターネット上ながらリアルコミュニティが実現されている。 (主な機能) ○ブログ、日記 ○ユーザー同士のメッセージ送受信 ○写真、動画共有 ○ブックマーク共有 ○アプリゲーム ○コミュニティ(ファンページ、グループ等)
LINE (ライン)	スマートフォン、PCでメッセージ交換や無料音声通話ができるアプリのことである。特に数あるメッセージアプリの中でLINEが注目を浴びた要因としてはスタンプが挙げられる。日本ではFacebookやTwitterに並ぶソーシャルサービスとして若者を中心に広く利用されている。
スタンプ	大きな絵文字のようなイラストであり、これをメッセージの中に入れることにより自分の感情を相手へと伝えやすくなっている。
タイムライン	LINEの機能の一つ。自分や友達の投稿記事が時系列に一覧表示されているもの。友達の近況を確認できる。(フェイスブックの「ニュースフィード」もよく似たもの) LINEとFacebookを併用する人も多く、コミュニケーションツールとして自分なりに使い分けをしている人が多い。

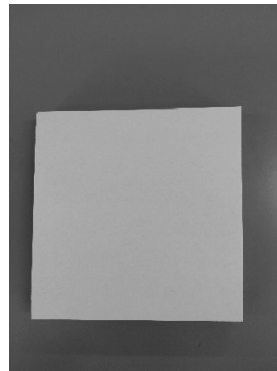
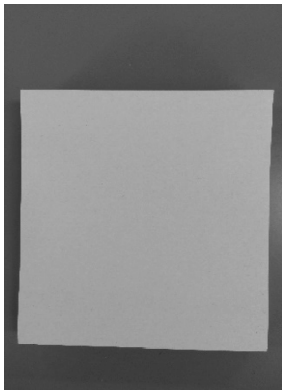
用語	意味
既読機能 既読スルー (KS)	LINE の機能の一つ。メッセージの送信相手がメッセージを確認したかどうか分かる仕組みになっている。この機能から、メッセージが読まれたにもかかわらず返信がないことを「既読スルー」と呼ばれる。既読スルーがきっかけで無視されたりいやがらせを受けたりするケースもある。 「外し」に遭いたくない一心で、食事中もスマホを手放さなくなり、夜遅くまで友人と「LINE 漬け」となり、依存の状態に陥ることもある。
なりすまし	他人の名前や盗用した ID やパスワードを利用し、その人のふりをしてネット上で悪意ある行為をすること。個人情報などをだまし取った上、その人になりすましてネットショッピングをしたり、他人になりすまして誹謗中傷の書き込みや偽メールを送ったりするなど、そのケースは幅広い。
チェーンメール	不特定多数への転送を求める内容が書かれたメールのこと。メールの受信者が次々と転送を行い、鎖のように延々メールが連なることからチェーン (= 鎖) メールと呼ばれる。噂話やデマだけではなく、中には慈善活動への協力を求める内容もあるが、膨大なメールが行き交うことでネットワークやメールサーバに負荷をかけるため、その内容にかかわらず受け取った人が止めるのがマナーとされている。
コピペ	「コピー&ペースト」の略。パソコンで文書などのデータを複製し、貼り付ける、という一連の操作を表す語。電子掲示板などでは書き込んだ文章の権利が書き込んだ瞬間に本人の手を離れることになっているが、他の掲示板などで同じ内容をコピー&ペースト、改変されてそのまま投稿・増殖していくものがある。これらの文章自体のことも「コピペ」と呼ぶこともある。
拡散	ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアにおいて、投稿されたメッセージを多くの人に引用してもらうこと。メッセージの引用は個人々人によって行われるが、しばしばねずみ算式に引用数が増え、多くの人元にメッセージが届く。「以下のメッセージを_希望」
炎上 (叩く)	特定の事柄に対して多くのユーザーがコメントや書き込みを行うこと。元々炎上という言葉は大きな建造物が焼けてしまうことを指していたが、現在ではインターネット上での失言などにより非難が集中することについても辞書の中で解説されることがある。
ネット依存症	パソコンやスマホの使用を自分ではコントロールできなくなり生活に支障がでている症状、人との会話中にもスマホの画面から目が離せなかったり、別のことを考えているときにネット上のことを考えたりする。使用時間がどんどん長くなり、1日の大半をネット使用に費やすようになり、仕事や家事、育児など重要なことでもおろそかにするようになってしまう。
デジタルデトックス	デトックスとは毒素を体から排出する健康法。転じてスマホを持たずに出かけたり、パソコンを使わない時間を決めたりしてパソコン、インターネットから一定期間離れ、過度な依存から脱する試み。

(参考) 自分の考えを出そう! 伝えよう! ~付せん紙を使って~

自分の考えを付せん紙に書いてグループで伝え合う方法に「KJ法」があります。

それぞれの人から出た意見で似ている意見をまとめることで、考えが整理され、分かりやすくなります。

<用意するもの> 付せん紙 (3色), サインペン, 色つきマジック, 模造紙 (付せん紙を貼るため)

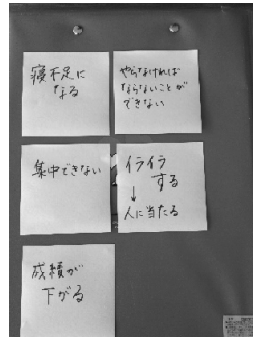


- 青：よいと思うところ, 工夫されていること
- 黄：気になること, 問題点
- ピンク：改善点, こうすればよいと思うこと

付せん紙はできれば3色用意しましょう。

<やり方> ※「その習慣『ネット依存かも?』」の活動を例に紹介します。

① 付せん紙1枚に、課題に対する考えを一つ書きます。



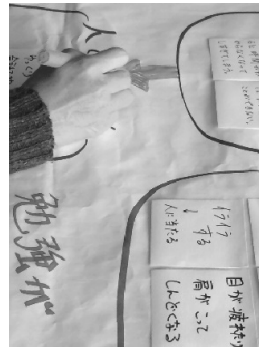
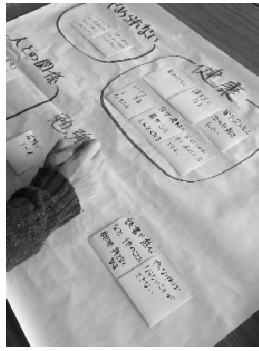
- サインペンを使って、はっきりと書きます。
- 決められた時間内は、考えをどんどん書いていきます。
- 自分の書いた付せん紙は、下じきなどに貼り付けておくと、分類する時に便利です。

② 模造紙を用意し、その上に付せん紙をはります。



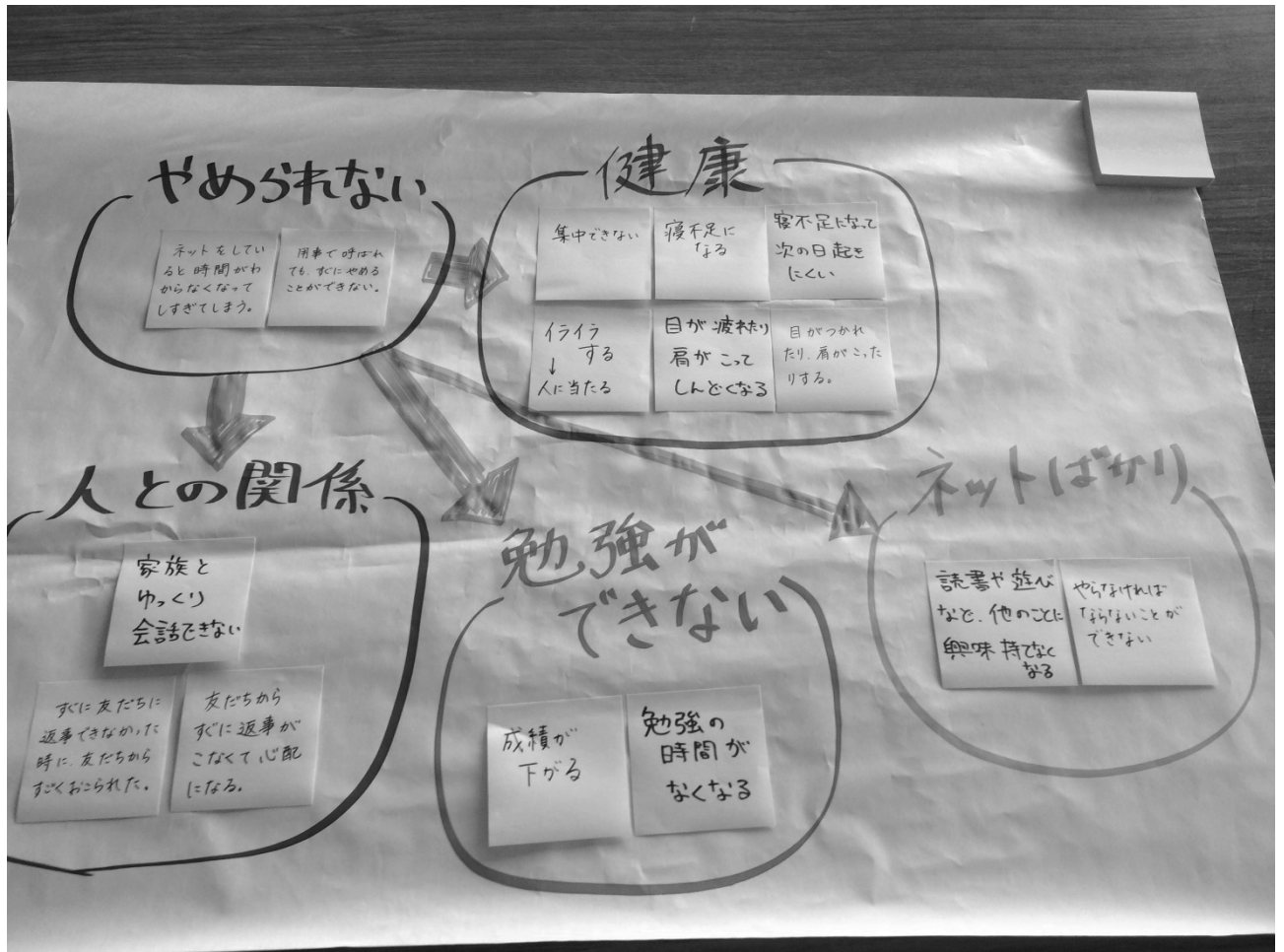
- グループで順番に、自分の書いた付せん紙を読み上げます。
同じ考えの付せん紙を持っている人がいたら、その時に一緒に出します。(重ねるか横に並べます)
- 一度出して、後で貼り直してもかまいません。
- 貼っていくと、付せん紙がいくつかのグループに分類されます。

- ③ 付せん紙のグループ分けができたら、色つきマジックを使って分類したグループのテーマを書きます。つながりのあるグループを矢印でつないで、関係が分かるようにしてもいいですね。



④ できあがり

それぞれの考えが整理され、ぱっと見て分かりやすくなります。また、それぞれの考えのつながりも見ることができます。



⑤ グループごとに、出た意見を発表します。(模造紙をけい示して)

グループで気になったことや、話題に上がったことなどを発表するといいいでしょう。

※時間配分 (例)

一人で書く (5分) → 読み上げ・付せん紙をはる (10分) → まとめる (5分)

ネットいじめ研究と対策の国際的動向と展望

大阪教育大学 戸田 有 一
東京福祉大学 青山 郁 子
甲子園大学 金 綱 知 征

でも問題をかかえており、いじめの問題にも悩まされてきた。

- たとえよば、ノルウェーでは1982年にいじめ自殺が連続し、大規模な調査が行われるに至った (Roland, 2011)。イギリスでは1980年代後半にいじめ自殺が続き、「欧州のいじめ王国」とタブロイド紙に揶揄され、1990年代に対策がすすんだ。フインランドでは2008年の学校銃乱射事件の犯人が、かつていじめ被害者だったと判明し社会にショックを与えた (戸田・ストロマイヤ, 2013)。このような経緯から、各国でいじめ対策や子どもたちの社会性涵養の必要性が認識された。いじめや攻撃性の問題は抑うつ系の問題や非行などと無縁ではなく、また、自殺や銃乱射 (rampage shooting) 事件への社会的注目が高いこと、そして、学校が責任を問われる事態があるために、教育行政も重大な問題として取り組んでいる。
- 欧州では、青年期研究のなかで、移民の問題とも重ねながらいじめや攻撃性の研究が展開されてきた。Smith (2011) によれば、いじめ研究は4つの時期に区分される。第一期は1970年から1988年頃で、起原の時期である。これより早い時期にも研究が散見されるが、学校でのいじめの系統的な研究は1970年代の主にスカンジナビア諸国での研究に遡る。第二期は1989年から1990年代半ばで、調査プログラムの確立期である。第三期は1990年半ばから2004年までで、国際的な共同研究の確立期である。第四期は2004年以降で、ネットいじめ研究の登場による研究領域の発展変遷期である。

日本国内のいじめ研究については、鈴木 (1995)、向井・神村 (1998)、戸田 (2010) などの展覧論文がある。森田 (1998) は国際的ないじめ研究ネットワークの最初の大きな成果であり、土屋・スミス・添田・折出 (2005) がその後のより緊密な議論の

1. いじめ研究と対策の国際的動向

- 1) いじめ問題と研究の小史
1980年代からの約30年間、国際的に知られたいじめ研究者の出身国はほとんど欧州やカナダ、オーストラリアであり、アメリカのいじめ研究は多くはなかつた。いじめ研究の中心であった欧州の教育の場のある側面であるPTSAの高得点や少人数学級などは、よく日本に伝えられる。しかしながら、教育問題を抱えていない国はない。欧州各国は程度の差こそあれ、青年期のアルコール依存や薬物依存や非行、そして抑うつや自殺について

結実である。

いじめの諸研究は、次の3つの特徴をもっている。①いじめの問題は、他の精神保健上の諸問題と不可分であると同様に、②学校でのいじめ問題と、家庭での虐待問題との関連も想定され、③近年では、ネットいじめの問題などは、国境を越えた問題として認識されている (詳しくは、戸田・ストロマイヤ, 2013を参照)。

1999年のコロンバイン高校での銃乱射事件の二人の青年が長年のいじめ被害者であったことを背景に (Garbarino & deLara, 2002)、アメリカでもいじめへの社会的関心が高まり、いじめ研究もさかんに行われるようになった。ちなみに、1974～2012年に起こった銃乱射事件36件の犯人38人のうち、少なくとも20人 (52.6%) が仲間によるいじめ・ハラスメント・脅迫への被害が動機であった (Larkin, 2013)。特に、ネットいじめ (cyberbullying) 研究が急激に増加し、それまでのいじめ研究の在り方方々で問い返している。

2) いじめの定義問題

さて、ここまで、いじめの定義をしない論じてきた。いじめの定義は研究者間でも微妙に異なるが、学校と保護者のあいだでも、いじめ定義のズレから解決に向けての共同ができなことももある。いじめと翻訳される英語であるbullyingに該当する各国の言葉のニュアンスにも多様性がある (Smith, Cowie, Olatsson, & Liefboegte, 2002)。しかし、たとえて言えば、発生 (存在) 海城と最大風速に依って「台風」「サイクロン」「ハリケーン」などのローカルな呼称をもつ現象がすべて熱帯低気圧であるように、「いじめ」「ブライキング」(英国)「ファンタ」(韓国) などのローカルな呼称をもつ現象は、発生地域による相違と共通部分の両方をもつと考えられる。その共通あるいは本質部分 (abus of power) であるとして以前より指摘されていた (Smith & Sharp, 1994) が、カナダの研究者が「関係性の問題 (relation problems)」としていじめをとらえ (Pepler, 2006)、認識が大きく変わってきた。実は、そもそも日本でのいじめ定義はこの観点がいっており、そのことが指摘されていた (詳しくは、滝, 2007を参照)。

森田・清水 (1986) のいじめ定義では、「同一集団内の相互作用過程において優位に立つ一方が、意識的に、あるいは集合的に、他方にたいして精神的・身体的苦痛をあたえようとする」として定義されている。もちろん、社会的排除が心理的ダメージを与えているのは、たとえ希薄であっても仲間集団のつながりが前提になっていることで、多くの定義は仲間内でのいじめが起きる可能性を無視しているわけではなく、森田・清水の定義ではこの点を当初から明示していた。この「同一集団内の相互作用過程において」という観点は重要で、見知らぬ人からの攻撃であれば繰り返されることになり、いじめと呼はず、警察などに通報することになると思われる。また、森田・清水 (1986) の著書の「教室の病」という副題にも、いじめは一定の関係性のある集団の問題であるということが端的に言明されている。

3) いじめ対策の国際的動向

いじめ対策としてだけでなく、心身の様々な問題を予防する教育として北米・欧州・豪州・東アジア各国が様々な対策を学校で行っている (山崎・戸田・渡辺, 2013)。そのうち、いじめ対策プログラムの多くは、学校や学級の単位で行われる認知行動主義に基づくプログラムで、集団としての社会性の醸成が問題への予防すると考えられる。ネット環境における問題への対応も視野に入れている。また、プログラム導入の背景に学校安全に関する立法やマニフェストによるバックアップがある。

欧州の対策プログラムを先述の期別にみると (Smith, 2011)、第一期は1983年秋のノルウェーでの国レベルのキャンペーンに始まり、その後、オランダ (Olweus, D.) によっていじめ予防プログラムOBPP (Olweus Bullying Prevention Program) が開発されて国際的に普及している。第二期には、イギリスやベルギーなどで予防キャンペーンが行われた。特に、イギリスでの1990年代前半のシエアフィールド・プロジェクトが知られている。この市全体での対策実践では、ピア・カウンセリング (現在では、ピア・サポーターと呼ばれている)、非叱責法、劇を使う方法など、現在も使われている多様な手法がほぼ網羅されている。

本論考（前ページ）の全文は、一橋大学〈教育と社会〉研究 第23号に集録されている。

「ネットいじめ」や「ケータイ問題」をどう教えるのか

—学校で使えるワークシート集—

平成27年3月13日

鳴門教育大学 教職大学院

阪根健二研究室

挿絵：松浦弘子

「ネットいじめ」や「ケータイ問題」を どう教えるのか

— 学校で使えるワークシート集 —

作 成 鳴門教育大学 阪根研究室

協 力 徳島市教育委員会青少年育成補導センター

本冊子は、科学研究費補助金基盤研究(C)「ネットいじめや『ケータイ問題』に関する教師の知識の現状把握と指導の改善について」(課題番号24531203 研究代表者 阪根健二)の研究成果によるものです。